



Cisco CallManager アップグレード手順

Release 4.2(1)



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティング システムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いません。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar, Aironet, ASIST, BPX, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, Cisco, Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity, Empowering the Internet Generation, Enterprise/Solver, EtherChannel, EtherFast, EtherSwitch, Fast Step, FormShare, GigaDrive, GigaStack, HomeLink, Internet Quotient, IOS, IP/TV, iQ Expertise, iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard, LightStream, Linksys, MeetingPlace, MGX, Networkers のロゴ、Networking Academy, Network Registrar, Packet, PIX, Post-Routing, Pre-Routing, ProConnect, RateMUX, ScriptShare, SlideCast, SMARTnet, StrataView Plus, TeleRouter, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルおよび Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Cisco CallManager アップグレード手順

Copyright © 2006 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	vii
目的	vii
対象読者	viii
表記法	viii
関連マニュアルの参照	ix
技術情報の入手方法	xi
Cisco.com	xi
Product Documentation DVD (英語版)	xi
マニュアルの発注方法 (英語版)	xi
シスコシステムズマニュアルセンター	xii
シスコ製品のセキュリティの概要	xiii
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xiii
テクニカル サポート	xiv
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xiv
Japan TAC Web サイト	xiv
サービス リクエストの発行	xv
サービス リクエストのシビラティの定義	xv
その他の資料および情報の入手方法	xvi

CHAPTER 1

インストールの前に	1-1
重要な考慮事項	1-1
Cisco CallManager 4.2 アップグレードについての FAQ	1-3
Cisco CallManager Release 4.2(1) には、どのバージョンの Cisco CallManager からアップグレードできますか	1-3
このアップグレードでシスコがサポートしているサーバおよびオペレーティングシステムのバージョンはどれですか	1-3
このアップグレードでシスコがサポートしているサードパーティ製アプリケーションはどれですか	1-4
クラスタ内のどのサーバを最初にアップグレードするのですか	1-5
Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか	1-6
クラスタのアップグレードには、どのくらいの時間がかかりますか	1-6

- アップグレード中にコール処理が中断されたり、サービスが失われたりする
ことはありますか 1-7
- Terminal Services、Virtual Network Computing、および Integrated Lights Out
を使用してリモートでサーバをアップグレードできますか 1-7
- Cisco CallManager サーバを Windows ドメインのメンバに追加できますか
1-8
- クラスタ内のサーバをドメイン コントローラとして構成してもよいですか
1-9
- アップグレード中に設定作業をしてもよいですか 1-9
- アップグレード前にドライブを取り外してもよいですか 1-9
- Cisco CallManager サーバには、どの Cisco IP テレフォニー アプリケーショ
ンをインストールできますか 1-10
- アップグレードする際に、他にも注意が必要な情報はありますか 1-11
- アップグレード後の作業はいつ実行するべきですか 1-12
- アップグレード中に問題が発生したらどうすればよいですか 1-12

CHAPTER 2

Cisco CallManager サーバのアップグレード (ハードウェアを交換しない場合)

2-1

- 始める前に 2-2
 - 既存の CAPF データの移行 2-5
 - 4.0 サブスクライバ サーバから 4.0 パブリッシャ データベース サーバへの
CAPF 1.0(1) データのコピー 2-6
 - アップグレード中に必要となる場合がある情報 2-7
- Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバのアップグレード 2-8
 - NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除し
てサーバをリブートする (設定されている場合は必須) 2-11
 - サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケー
ションを無効にして停止し、サーバをリブートする (必須) 2-12
 - CIPT Backup and Restore (BARS) バージョン 4.0(7) (またはそれ以降) を
インストールして設定する (強く推奨) 2-13
 - 既存のデータをバックアップする (強く推奨) 2-13
 - クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility
を実行する (強く推奨) 2-14
 - ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリング
する (強く推奨) 2-14
 - オペレーティング システムをシスコが提供するバージョン 2000.4.2sr2 (ま
たはそれ以降) にアップグレードする (必須) 2-16
 - Cisco IP Telephony Server Operating System Service Release をダウンロード
してインストールする (必須) 2-16
 - 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロー
ドしてインストールする (推奨) 2-16
 - ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード 2-16

関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する (必須) 2-18

Cisco CallManager サブスクライバ サーバのアップグレード 2-20

NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする (設定されている場合は必須) 2-22

サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする (必須) 2-23

ServPrep ユーティリティを実行する (オプション) 2-24

オペレーティング システムをシスコが提供するバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードする (必須) 2-25

Cisco IP Telephony Server Operating System Service Release をダウンロードしてインストールする (必須) 2-25

最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする (推奨) 2-25

ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード 2-25

関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する (必須) 2-27

CHAPTER 3

アップグレード後の作業の実行 3-1

デフォルトの回復設定 3-5

サードパーティ製アプリケーション、アンチウィルス サービス、セキュリティ エージェントの有効化 3-5

サブスクライバ接続の確認および再初期化 3-6

サービス、パッチ、およびホットフィックスの確認 3-7

ルート リストの再割り当て 3-8

Java Virtual Machine のインストール要件 3-9

JRE のインストール 3-10

サーバにインストールされているコンポーネントのバージョンの表示 3-11

TAPI、JTAPI、および Cisco Telephony Service Provider (TSP) のアップグレード 3-11

Cisco SoftPhone の Cisco TAPI/TSP のアップグレード 3-12

CRS での JTAPI Update Utility の使用 3-13

Cisco CallManager Music On Hold ディスクまたはダウンロードの使用法 3-14

CHAPTER 4

アップグレード試行後における前の設定の復元 4-1

アップグレード前にドライブを取り外さなかった場合の再設定 4-2

アップグレード前にドライブを取り外した場合の再設定 4-3

ドライブのミラーリング完了後のハードドライブ復元 4-5

Cisco CallManager 復元後のアップグレード済み Cisco IP テレフォニー アプリケーションの復元 4-6

CHAPTER 5

アップグレードメッセージ 5-1

名前解決に関する問題の解決 5-15

Restrict CD-ROM Access to Locally Logged-On User Only セキュリティ ポリシー
の無効化 5-18

CHAPTER 6

アップグレード中のサーバ交換 6-1

Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード中の Cisco CallManager パブリッシャ
データベース サーバの交換 6-2

Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード中の Cisco CallManager サブスクライバ
サーバの交換 6-5

アップグレード中のハードウェア交換のトラブルシューティング 6-7

INDEX

索引



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。

次のトピックについて取り上げます。

- [目的 \(P.vii\)](#)
- [対象読者 \(P.viii\)](#)
- [表記法 \(P.viii\)](#)
- [関連マニュアルの参照 \(P.ix\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P.xi\)](#)
- [テクニカル サポート \(P.xiv\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P.xvi\)](#)

目的

このマニュアルでは、Cisco CallManager のアップグレード手順と要件について説明します。対象となるサーバは、Cisco Media Convergence Server、およびお客様が用意したシスコ構成規格に準拠したサーバです。

このマニュアルは、次の内容で構成されています。

- [インストールの前に \(P.1-1\)](#)
- [Cisco CallManager サーバのアップグレード \(ハードウェアを交換しない場合\)\(P.2-1\)](#)
- [アップグレード後の作業の実行 \(P.3-1\)](#)
- [アップグレード試行後における前の設定の復元 \(P.4-1\)](#)
- [アップグレードメッセージ \(P.5-1\)](#)
- [アップグレード中のサーバ交換 \(P.6-1\)](#)



ヒント

このマニュアルは、[P.ix](#) の「[関連マニュアルの参照](#)」に記載されているマニュアルと併せてお読みください。

対象読者

本書は、Cisco CallManager システムのメンテナンスを担当するネットワーク管理者を対象にしています。テレフォニーおよび IP ネットワーキング テクノロジーに関する知識が必要です。

表記法

本書では、次の表記法を使用しています。

本書では、原則としてベースとなるサーバ モデル番号を使用して説明します。たとえば MCS-7835 に関する説明は、MCS-7835、MCS-7835-1000、MCS-7835-1266、MCS 7835H-2.4、MCS-7835I-2.4、MCS-7835H-3.0、MCS-7835I-3.0、お客様が用意する DL380、およびお客様が用意する IBM xSeries 342 や 345 の各サーバに適用されます。

青色のテキスト：ご使用のコンピュータから特定の項や URL にすばやく移動するには、青色で表示されているテキストをクリックします。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



ワンポイント・アドバイス

このヒントに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

(必須)

この作業が必須であることを示します。作業を行わなかった場合、システム全体にわたる障害や、データおよび設定内容の消失につながる可能性があります。

(推奨)

この作業を強く推奨しますが、必須ではないことを意味します。

関連マニュアルの参照

アップグレードを実行するときは、事前に次の資料を参照しておくことを強く推奨します。

- *Release Notes for Cisco CallManager Release 4.2*

本書のバージョンは、アップグレード マニュアルのバージョンと一致しています。アップグレード マニュアルと併せてお読みください。

- *Cisco CallManager Compatibility Matrix*

Cisco CallManager が、アップグレード前と変わらず、Cisco IP テレフォニー アプリケーションと連携して機能しているかどうかを確認するには、『*Cisco CallManager Compatibility Matrix*』を参照してください。本書では、Cisco CallManager に統合されるアプリケーションの対処方法について説明しています。

関連のあるアプリケーションには、Cisco Conference Connection、Cisco SoftPhone、Cisco uOne、Cisco 186 Analog Telephony Adaptor、Cisco Personal Assistant、Cisco Customer Response Solutions (CRS)、Telephony Application Programming Interface および Java Telephony Application Programming Interface (TAPI/JTAPI) アプリケーションが含まれます。TAPI/JTAPI アプリケーションには、シスコ製アプリケーション、サードパーティ製アプリケーションおよび Cisco Telephony Service Provider (TSP) が含まれています。

コール センター環境で Cisco CallManager および関連する Cisco IP テレフォニー アプリケーションを使用する場合は、アップグレード手順を開始する前に、本書を参照してください。

- サードパーティ製アプリケーションの互換性に関する情報

Cisco CallManager をアップグレードする前に、ご使用のネットワークで動作するすべてのアプリケーション (シスコが提供し認定しているアプリケーション) が Cisco CallManager のこのバージョンと互換性があることを確認してください。

- *Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*

本書では、最新のオペレーティング システム、SQL Server、およびセキュリティ サポート アップデートについて説明しています。本書の説明は、次の Cisco IP テレフォニー アプリケーション、つまり Cisco CallManager、Conference Connection、Personal Assistant、Cisco Customer Response Applications/Solutions を実行するサーバに適用されます。

- *Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide*

本書では、BARS ユーティリティのインストール、バックアップ設定の構成、Cisco CallManager データのバックアップ、データおよびサーバの復元の各方法について説明しています。

また、ユーティリティでバックアップされるファイルのリストも記載しています。このユーティリティはオペレーティング システムのファイルはバックアップしません。ただし、Host および LMHost ファイルは、サーバに存在する場合はバックアップされます。

- *Cisco CallManager セキュリティ ガイド*


本書では、Cisco CallManager、Cisco IP Phone、SRST リファレンス、および Cisco MGCP ゲートウェイに関する認証と暗号化の設定とトラブルシューティングを行う手順をステップごとに説明しています。

- Cisco IP テレフォニー アプリケーション関連資料

Cisco CallManager に統合したアプリケーションのリリース ノート、インストール ガイド、アップグレード ガイドおよびコンフィギュレーション ガイドを確認してください。

表 1 内の URL をクリックすると、関連資料および関連ソフトウェアに移動できます。

表 1 関連資料の入手先 URL

関連情報およびソフトウェア	URL および追加情報
オペレーティング システムのマニュアル および Virtual Network Computing (VNC) の 資料 (readme 資料ではありません)	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/iptel_os/index.htm
Cisco MCS のデータ シート	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/index.html
ソフトウェア専用のサーバ (IBM、HP、 Compaq、Aquarius)	http://www.cisco.com/en/US/products/hw/voiceapp/ps378/prod_brochure_list.html
<i>Cisco CallManager Compatibility Matrix</i>	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm
Cisco Partner Program の互換性に関する情 報	http://www.cisco.com/pcgi-bin/ecoa/Search
Cisco Technology Affiliate Program の互換性 に関する情報	http://www.cisco.com/pcgi-bin/ecoa/Search?isAffil=Y
Cisco CallManager の資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm
Cisco CallManager のバックアップ マニユ アルと復元の資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm
Cisco CallManager、SQL Server、およびオ ペレーティング システムのサービス リ リース、アップグレード、および readme 資料	 (注) http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml オペレーティング システムおよび SQL Server 2000 サービス リ リースは、音声製品オペレーティング システム暗号化ソフトウェ ア ページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。
<i>Cisco CallManager セキュリティ ガイド</i>	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/sec_vir/ae/index.htm
Cisco IP テレフォニー アプリケーション 関連資料	http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/index.htm

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカルサポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

また、シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_ipt_ucm.shtml

Product Documentation DVD (英語版)

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコの各ハードウェア製品やソフトウェア製品のインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスできます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じ HTML マニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ (Cisco Direct Customers) の場合、次の URL の Cisco Marketplace から Product Documentation DVD (Product Number DOC-DOCDVD= または DOC-DOCDVD=SUB) を発注できます。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法 (英語版)

Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル (英文のみ) を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告、注意事項、および回答の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告、注意事項、および回答がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードに登録してください。PSIRT RSS フィードに登録する方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合 : security-alert@cisco.com (英語のみ)
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと見なされます。
- 緊急でない場合 : psirt@cisco.com (英語のみ)

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302 (英語のみ)
- 1 408 525-6532 (英語のみ)



ヒント

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品 (GnuPG など) を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 9.x で暗号化された情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

PGP を持っていない、または使用していない場合は、機密情報を送信する前に前述のメール アドレスまたは電話番号で PSIRT に問い合わせ、他のデータ暗号化方法を確認してください。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンド ペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3: ネットワークに軽微な障害が発生した、S4: 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1: ネットワークがダウンした、S2: ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- 『Cisco Product Quick Reference Guide』は手軽でコンパクトな参照ツールです。チャネルパートナー経由で販売される多くのシスコ製品に関する簡単な製品概要、主要な機能、サンプル部品番号、および簡単な技術仕様を記載しています。年 2 回の更新の際には、シスコの最新情報が収録されます。『Cisco Product Quick Reference Guide』の注文方法および詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/guide>

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーキング全般、トレーニング、および認定資格に関する書籍を広範囲にわたって出版しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンラインサービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、事例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/ipj>

- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。

<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>

- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。

<http://www.cisco.com/discuss/networking>

- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



インストールの前に

この章では、Cisco CallManager サーバをアップグレードする前に考慮すべき事項、および Cisco CallManager 4.2 のアップグレードに関する FAQ を取り上げます。

重要な考慮事項

Cisco CallManager のインストールまたはアップグレードを開始する前に、次の要件と推奨事項を考慮してください。

- Cisco CallManager は、Cisco CallManager サーバ上に 1 GB 以上のメモリを必要とします。コールのドロップなどシステムの問題を避けるために、サーバに 1 GB 以上のメモリが装備されていることを確認してください。パブリッシャ サーバのメモリが 1 GB 未満であることをインストール プロセスが検出すると、インストールは打ち切られます。Cisco CallManager サブスクライバ サーバでは、インストール プロセスが同様のチェックを実行し、最小要件未満であることを検出してもインストールは続行できます。
- Cisco CallManager ソフトウェアは、まずパブリッシャ サーバにインストールしてからサブスクライバ サーバにインストールします。
- クラスタへのサブスクライバ サーバの追加は、以前のバージョンの Cisco CallManager をサブスクライバ サーバにインストールし、その後でパブリッシャ サーバと同じバージョンにアップグレードするという方法によって行うことはできません。クラスタ上で新規のサブスクライバ サーバを追加する、またはサブスクライバ サーバを置き換える場合は、パブリッシャ サーバで実行されている Cisco CallManager と同じバージョンのインストール CD を使用する必要があります。
- Cisco CallManager のインストールを開始する前に、管理者としてサーバにログインしていることを確認します。
- Cisco CallManager ソフトウェアは、一度にサーバ 1 台ずつインストールします。これは、サブスクライバ サーバがパブリッシャ データベース サーバからデータベースの複製コピーを確実に取得できるようにするためです。
- インストール先のサブスクライバ サーバがインストール中にパブリッシング データベース サーバに接続できることを確認します。
- いったんインストールを開始したら、Cancel を選択しないでください。Cancel を選択した場合、オペレーティング システムを再インストールしてマシンの再イメージを行う必要があります。
- Cisco CallManager サーバのセキュリティ設定値は、インストール スクリプトおよびアップグレード スクリプトによってセットアップされます。定義済みのこれらの設定値を変更しないでください。変更すると、ご使用のサーバの機能に重大な影響が及ぶ場合があります。
- ローカル Administrator アカウントおよび SA (SQL Server システム管理者) アカウントを入力する場合は、英数字の文字だけを使用してください。

- クラスタ内のサーバすべてに対して、同一の管理者パスワードを入力します。
- コール処理の中断による影響を回避するため、Cisco CallManager ソフトウェアは、オフピーク時またはメンテナンス ウィンドウが表示されているときにインストールします。
- 単一の Cisco CallManager サーバからミラーリングまたは複製されているドライブを使用して、1つの Cisco CallManager クラスタに複数のサーバを実装しないでください。このような実装を行うと、これらのサーバ内に重複するセキュリティ ID (SID) が作成され、Cisco CallManager の動作が悪影響を受けます。Cisco IP テレフォニー オペレーティングシステムと Cisco CallManager ソフトウェアは、シスコが提供するインストール CD を使用して、それぞれ別のサーバにインストールしてください。
- クラスタ内のどのサーバもドメイン コントローラとして構成しないでください。
- このソフトウェアをインストールする前に、サーバをワークグループ内に配置します。
- 静的 IP アドレッシングを使用してサーバを構成して、サーバが確実に固定 IP アドレスを取得し、Cisco IP Phone のネットワーク接続時にそれらの IP Phone がアプリケーションに登録されるようにします。
- インストール中は、どのような設定作業も実行しないでください。
- Cisco CallManager ソフトウェアのインストールにターミナル サービスを使用しないでください。
- クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager のインストールが完了するまで、シスコで検証されたどのようなアプリケーションもインストールしないでください。
- Cisco CallManager がインストールされているサーバでは、サポートされるアプリケーションは限定されています。サードパーティ製のアプリケーションがサポートされているかどうか不明な場合は、サーバにインストールしないでください。
- Cisco CallManager をインストールする前に、サーバ上のサードパーティ製アプリケーション (シスコで検証済み) を無効にする必要があります。
- 不正な侵入からサーバを保護するために、セキュリティ エージェントをインストールします。
- Cisco Unity は、Cisco CallManager がインストールされているサーバにはインストールしないでください。
- お客様が用意する Cisco MCS またはシスコ認定のサーバで Netscape Navigator をインストールまたは使用すると、重大なパフォーマンス上の問題が発生します。
- インストールを開始する前に、次の説明を十分注意して読んでください。P.2-1 の「Cisco CallManager サーバのアップグレード (ハードウェアを交換しない場合)」および P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。

Cisco CallManager 4.2 アップグレードについての FAQ

次の FAQ は、すべての Cisco CallManager 4.2 アップグレードに適用されます。

Cisco CallManager Release 4.2(1) には、どのバージョンの Cisco CallManager からアップグレードできますか

どのバージョンの Cisco CallManager がアップグレード可能なのかを確認するには、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。本書の最新版を入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm にアクセスしてください。

サーバで Cisco CallManager Release 3.2 またはそれ以前のバージョンを実行している場合は、クラスタ内のすべてのサーバを Cisco CallManager Release 3.3 の最新バージョンにアップグレードしてから Cisco CallManager Release 4.2 にアップグレードする必要があります。Cisco CallManager Release 3.3、4.0、または 4.1 へのアップグレードについては、該当するバージョンの『Cisco CallManager アップグレード手順』を参照してください。Cisco CallManager Release 3.2 またはそれ以前のバージョンから Cisco CallManager Release 4.2 に直接アップグレードすることはできません。

アップグレード手順を実行する前に、最新のオペレーティングシステムのアップグレードまたはサービス リリース、SQL サービス リリースまたはホットフィックス、現在クラスタで実行しているバージョンの Cisco CallManager サービス リリースをインストールすることを強く推奨します。サービス リリースおよび対応する readme 資料は cisco.com で提供されています。これらの資料を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。



注意

Cisco CallManager 4.2(1) には、4.2(1) にアップグレード可能なバージョンからのみアップグレードすることを推奨します。4.2(1) へのアップグレードが不可能なバージョンには、4.2(1) でサポートされない機能が含まれている場合があります。サポートされないバージョンからアップグレードすると、4.2(1) でサポートされない機能にアクセスできなくなり、それらの機能に関連付けられているデータが失われます。

このアップグレードでシスコがサポートしているサーバおよびオペレーティングシステムのバージョンはどれですか

Cisco CallManager Release 4.2(1) がサポートしているサーバについては、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。この資料の最新版を入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。

Cisco CallManager Release 4.2(1) にアップグレードする前に、シスコが提供する最新のサービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) 付きオペレーティングシステム バージョン 2000.4.2 をインストールすることを推奨します。

Cisco CallManager 3.3 から 4.2(1) にアップグレードする場合

サーバで Cisco CallManager 3.3 とオペレーティングシステム バージョン 2000.2.3 (またはそれ以降) を実行する場合は、オペレーティングシステム アップグレード CD-ROM またはオペレーティングシステム Web ダウンロードを使用してオペレーティングシステムを 2000.4.2sr2 以降にアップグレードできます。詳細については、P.2-1 の「Cisco CallManager サーバのアップグレード (ハードウェアを交換しない場合)」を参照してください。

Cisco CallManager 4.0 から 4.2(1) にアップグレードする場合

サーバで Cisco CallManager 4.0 を実行する場合は、オペレーティングシステム アップグレード CD-ROM またはオペレーティングシステム Web ダウンロードを使用してオペレーティングシステムを 2000.4.2sr2 以降にアップグレードできます。詳細については、P.2-1 の「Cisco CallManager サーバのアップグレード（ハードウェアを交換しない場合）」を参照してください。

このアップグレードでシスコがサポートしているサードパーティ製アプリケーションはどれですか

Cisco Partner Program および Technology Affiliate Program では、指定されたすべてのパートナーおよび加盟企業による Cisco CallManager 主要リリース用のアプリケーションや製品に対して、Interoperability Verification Testing (IVT; 相互運用性検証テスト) の実施を要求しています。IVT の実施前にこのバージョンの Cisco CallManager にアップグレードした場合は、ネットワークで動作しているシスコ認定のサードパーティ製アプリケーションのパフォーマンスや互換性に関する問題が発生する可能性があります。Cisco CallManager をアップグレードする前に、ご使用のネットワークで動作するすべてのアプリケーション（シスコが提供し認定しているアプリケーション）が Cisco CallManager のこのバージョンと互換性があることを確認してください。シスコ提供またはシスコ認定のサードパーティ製アプリケーションには、Cisco IP Contact Center、Cisco Emergency Responder、IVR などがあります。

互換性が確認されるまで、このバージョンの Cisco CallManager にアップグレードしないことを強く推奨します。互換性のあるアプリケーションが利用可能になったら、Cisco CallManager、アプリケーションの順でアップグレードします。

シスコ認定のサードパーティ製アプリケーションまたは製品の互換性テストが完了しているかどうかを判別するには、次の URL を参照してください。

Cisco Partner Program

<http://www.cisco.com/cgi-bin/eco/Search>

検索する企業名を入力し、Search をクリックします。

Cisco CallManager と共にサーバにインストール可能なシスコ認定のサードパーティ製アプリケーションの一覧を表示するには、Solution ペインで IP Telephony を選択し、Solution Category ドロップダウン リスト ボックスで Operations, Administration, and Maintenance (OAM) を選択します。

Cisco Technology Affiliate Program

<http://www.cisco.com/cgi-bin/eco/Search?isAffil=Y>

検索する企業名を入力し、Search をクリックします。

**注意**

お客様が用意する Cisco MCS またはシスコ認定のサーバで Netscape Navigator をインストールまたは使用すると、重大なパフォーマンス上の問題が発生します。

**ヒント**

互換性のある Cisco アプリケーションの最新の一覧を入手するには、次の URL で『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm

**注意**

Cisco CallManager がインストールされているサーバでは、シスコがサポートするアプリケーションは限定されています。サードパーティ製のアプリケーションがサポートされているかどうか不明な場合は、サーバにインストールしないでください。

クラスタ内のどのサーバを最初にアップグレードするのですか

**注意**

Cisco CallManager に関するアップグレード作業を実行する場合は、サブスクリイバサーバがパブリッシャ データベースサーバからデータベースの複製を取り出せるように、一度に1台ずつサーバをアップグレードする必要があります。サブスクリイバサーバが複製を取り出すには、パブリッシャ データベースサーバが実行中である必要があります。また、サブスクリイバサーバのアップグレード中は、パブリッシャ データベースサーバに変更を加えないでください。1台のサーバのアップグレードを完了し、リブートしてから、次のサーバのアップグレードを開始します。

**注意**

本書では、すべてのサーバが実行中で正しく機能していることを前提としています。サーバが停止している場合や正しく機能していない場合は、フェールオーバーは発生しません。

クラスタ内のサーバはすべてアップグレードする必要があります。順序はクラスタの構成によって異なります。

Cisco CallManager がパブリッシャで動作している場合

Cisco CallManager がパブリッシャ データベースサーバ(2つのサーバから成るクラスタ)で動作している場合は、次の順序でサーバをアップグレードします。

1. パブリッシャ データベースサーバをアップグレードします。

アップグレードを実行すると、Cisco CallManager のサービスは自動的に停止し、パブリッシャ データベースサーバをホームとするデバイスはサブスクリイバサーバにフェールオーバーします。

2. サブスクリイバをアップグレードします。

Cisco CallManager がパブリッシャで動作していない場合

Cisco CallManager がパブリッシャ データベースサーバで動作していない場合は、次の順序でサーバをアップグレードします。

1. パブリッシャ データベースサーバをアップグレードします。
2. Cisco TFTP サーバがパブリッシャ データベースサーバと別に存在する場合は、Cisco TFTP サーバをアップグレードします。
3. Cisco CallManager に関連するサービス (Music On Hold、Cisco IP Media Streaming Application など) だけを実行するサーバを一度に1台ずつアップグレードします。

サーバは一度に1台ずつアップグレードしてください。

Cisco CallManager サービスが、これらのサーバ上で動作していないことを確認してください。

4. 各セカンダリ サーバを一度に 1 台ずつアップグレードします。

アップグレード時にセカンダリ サーバをオーバーサブスクライブする場合は、アップグレード中に 5,000 を超えるデバイスをセカンダリ サーバに登録しないことを強く推奨します。また、セカンダリ サーバのオーバーサブスクライブ作業は、2 ~ 3 時間以内に行うことを推奨します。アップグレードは、通話量が少ないオフピーク時に実行することも強く推奨します（混雑時でも 1,000 コール以内）。

クラスタ内で 4 台のプライマリ サーバと 2 台のセカンダリ サーバを設定するなど、シスコが認定する構成規格に基づいて Cisco CallManager クラスタが設定されている場合、アップグレード中に同じバージョンの Cisco CallManager を実行しているサーバにすべてのデバイスを登録すると、コール処理の中断を最小限にできます。これは、すべてのデバイスは、Cisco CallManager セカンダリ サーバと Cisco CallManager プライマリ サーバの両方ではなく、どちらか一方のサーバに登録されるためです。

5. Cisco CallManager サービスを実行している各プライマリ サーバをアップグレードします。サーバは一度に 1 台ずつアップグレードします。



注意

プライマリ サーバ（複数）をアップグレードする場合、コール処理は最長で 30 分間中断することがあります。これは、デバイスがデバイス ロードを取得し、Cisco CallManager のアップグレードバージョンにデバイスを登録するためにかかる時間です。

6. Cisco Conference Connection または Cisco Emergency Responder など、Cisco IP テレフォニー アプリケーションを実行するサーバをアップグレードします。サーバは一度に 1 台ずつアップグレードします。詳細については、アプリケーションの資料を参照してください。

Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか

共存サーバでのアップグレードの実行方法の詳細については、このバージョンの Cisco CallManager と互換性がある CRS マニュアルを参照してください。

クラスタのアップグレードには、どのくらいの時間がかかりますか

コール処理のダウンタイムを最小にするため、Cisco CallManager のアップグレード手順と Cisco IP テレフォニー アプリケーションのアップグレードまたは再インストールをすべて連続して（同じメンテナンス期間内に）実行することを強く推奨します。

アップグレードを実行する前に、アップグレードの前後に必要な作業、Cisco IP テレフォニー アプリケーションのアップグレードまたは再インストール、およびシスコ認定のアプリケーションのアップグレードまたは再インストールに必要な時間も考慮してください。

パブリッシャ データベース サーバ上での特定の作業にかかる時間については、[P.2-1 の「Cisco CallManager サーバのアップグレード（ハードウェアを交換しない場合）」](#)を参照してください。

アップグレード中にコール処理が中断されたり、サービスが失われたりすることはありますか

アップグレードの前に、次の情報を確認してください。

コール処理の中断の最小化について

クラスタをアップグレードすると、クラスタ内で独立した2つの Cisco CallManager が同時に実行されます。あるクラスタ内で異なるバージョンの Cisco CallManager が実行されている場合、そのクラスタ内の Cisco CallManager 間では相互対話は行われず、コール処理が中断される場合があることに注意してください。

クラスタ内で4台のプライマリサーバと2台のバックアップサーバを設定するなど、シスコが認定する構成規格に基づいて Cisco CallManager クラスタが設定されている場合、アップグレード中に同じバージョンの Cisco CallManager を実行しているサーバにすべてのデバイスを登録すると、コール処理の中断を最小限にできます。これは、すべてのデバイスは、Cisco CallManager バックアップサーバと Cisco CallManager プライマリサーバの両方ではなく、どちらか一方のサーバに登録されるためです。

サービスが失われることについて

アップグレード中、Cisco CallManager によって Cisco CallManager Serviceability に表示される Cisco CallManager 関連のサービスは非アクティブの状態となります。アップグレードの完了後にサーバをリポートすると、移行されたサービスが有効になり、開始されます。その他のサービスを使用するには、サービスを実行する各サーバで、そのサービスをアクティブにする必要があります。サービスをアクティブにする方法については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』、または Cisco CallManager アプリケーションのオンラインヘルプを参照してください。



注意

コール処理の中断を最小限にするために、単一のメンテナンス期間内にアップグレードを実行することを強く推奨します。

Terminal Services、Virtual Network Computing、および Integrated Lights Out を使用してリモートでサーバをアップグレードできますか

Terminal Services または Integrated Lights Out (ILO) は、Cisco CallManager Release 4.2(1) にアップグレードするために使用しないでください。シスコは、Cisco Technical Assistance Center (TAC) がリモート管理およびトラブルシューティングを行うことができるように Terminal Services をインストールしています。したがって、Terminal Services を介したアップグレードはサポートされていません。



注意

アップグレードの前に、Terminal Services を無効にし、ただちにサーバをリポートして、サーバにリモートアクセスできないようにすることを強く推奨します。Terminal Services を介してサーバにアクセスすると、アップグレードが失敗することがあります。

サーバをアップグレードした後に、Terminal Services を有効にする必要があります。

Virtual Network Computing (VNC) を使用してパブリッシャ データベースサーバをリモートでアップグレードする場合は、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/iptel_os/index.htm にアクセスして最新版の VNC マニュアルを入手してください。

**注意**

VNC をインストールしていてもそれを使用してアップグレードを実行する計画がない場合は、VNC を無効にしてサーバにリモート アクセスできないようにします。アップグレード中に VNC と、ユーザおよび管理者のサーバ アクセスを無効にしないと、アップグレードが失敗することがあります。

Integrated Lights Out (ILO) を使用してアップグレードまたはインストール作業を行わないでください。シスコが ILO でサポートするのは、リモート管理作業およびリモート設定作業だけです。

Cisco CallManager サーバを Windows ドメインのメンバに追加できますか

Cisco CallManager サーバを Microsoft Windows ドメインのメンバに追加することは推奨しません。ただし、システム アーキテクチャが Windows ドメインに参加しているサーバに依存している場合は、サーバをドメインのメンバに追加するときに、Cisco CallManager がインストールした Network Time Protocol (NTP) ソフトウェアを無効にして、Microsoft Time サービスを使用する必要があります。クラスタ内に存在するすべてのサーバの NTP サービスを無効にする必要があります。

**(注)**

Cisco CallManager をインストールするときに、サーバをワークグループのメンバとしてインストールする必要があります。

**(注)**

インストール済みの NTP コンフィギュレーション ファイル (NTP.CONF) を変更しないでください。NTP.CONF ファイルを変更すると、CDR、トレース、イベント ログイングなどとの同期の問題が発生することがあります。このような変更は、サポート対象外です。

サーバにインストールされている NTP ソフトウェアを無効にするには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Start > Programs > Administrative Tools > Services を選択します。
- ステップ 2** Network Time Protocol サービスをダブルクリックします。
- ステップ 3** Startup type フィールドで Disabled を選択します。
- ステップ 4** Stop をクリックします。
- ステップ 5** OK をクリックします。

**注意**

サーバをアップグレードするときは必ず、アップグレード ソフトウェアをインストールする前に、Windows ドメインからサーバを削除してください。

アップグレードを完了し、サーバを Windows ドメインに追加した後、シスコがインストールした NTP サービスを再度無効にする必要があります。

サーバを Microsoft Windows 4.0 ドメインに参加させる場合は、時間を同期させる追加手順も実行する必要があります。http://www.microsoft.com の「*How to Synchronize the Time on a Windows 2000-Based Computer in a Windows NT 4.0 Domain*」を参照してください。

クラスタ内のサーバをドメイン コントローラとして構成してもよいですか

クラスタ内のどのサーバもドメイン コントローラとして構成しないでください。クラスタ内のサーバをドメイン コントローラとして構成すると、そのサーバに、Cisco CallManager をインストールすることも、アップグレードすることもできなくなります。

アップグレード中に設定作業をしてもよいですか



注意

アップグレード中は、設定作業を実行しないでください。アップグレードを開始する前に、管理者がリモート設定作業を実行できるすべてのサービスを無効にします。たとえば、アップグレード前に Terminal Services または VNC を無効にして、管理者がアップグレード中にサーバを参照できなくします。

アップグレードを実行していることをすべてのユーザに通知して、アップグレード中にサーバを参照しないようにします。

アップグレード中に設定作業を実行すると、アップグレードが失敗します。

アップグレード前にドライブを取り外してもよいですか



注意

サーバが MCS-7815、MCS-7820、MCS-7822、MCS-7825、またはお客様が用意する IBM xSeries 330 である場合、ドライブは取り外しできません。

アップグレード前に、ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングする

この作業を正しく実行する方法については、P.2-14 の「[ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングする \(強く推奨\)](#)」を参照してください。

サーバでドライブを取り外して1つのドライブによってアップグレードする

サーバでドライブを取り外して1つのハードドライブによってアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

ステップ 1 パブリッシャ データベース サーバの電源をオフにします。

ステップ 2 MCS-7845 を除くすべてのサーバに対して、スロット 0 からハードドライブを取り外し、マシン名、スロット番号、および Cisco CallManager の現在のバージョンを記入したラベルを貼付します。

MCS-7845 では、スロット 0 および スロット 2 からドライブを取り外し、該当する情報のラベルを貼付します。

ステップ 3 システムの電源をオンにします。

Cisco MCS

ステップ 4 Cisco MCS に対して次の手順を実行します (MCS-7845 には予備のハード ドライブが 2 つ必要です)。

a. F2 キーを押して、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 で一時回復モードを有効にします。



(注) MCS-7835H-2.4 (またはそれ以降) および MCS-7845H-2.4 (またはそれ以降) では、デフォルトは F2 に設定され、10 秒後に自動的に処理を続行します。

b. このステップは、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 にだけ適用されます。プロンプトが表示されたら、F1 キーを押し、続行します。

ステップ 5 Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。

IBM xSeries サーバ

ステップ 6 F5 キーを押して、お客様が用意する IBM xSeries 342 サーバで一時回復モードを有効にします。

ステップ 7 Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。

Cisco CallManager サーバには、どの Cisco IP テレフォニー アプリケーションをインストールできますか

Cisco MCS またはお客様が用意するサーバに Cisco CallManager 以外のソフトウェアをインストールする前に、次のことを考慮してください。

- Cisco Customer Response Solutions (CRS) の互換バージョンをインストールできます。これは Cisco CallManager とは別に購入する必要があります。
- Cisco Unity、Cisco Conference Connection、Cisco Personal Assistant、または Cisco Emergency Responder を、Cisco CallManager がインストールされているサーバにインストールしないでください。
- サーバを不正侵入から保護するために、セキュリティ エージェントをインストールすることを強く推奨します。シスコは、Cisco Security Agent (CSA) for Cisco CallManager および Management Center for Cisco Security Agent (CSA MC) という 2 つのセキュリティ エージェント オプションを提供しています。

CSA for Cisco CallManager は、音声クラスタ内のすべてのサーバで使用するよう設計されているセキュリティ ポリシーと、スタンドアロン エージェントを指定します。このエージェントに含まれているポリシーは、Cisco CallManager および Customer Response Applications (CRA) 専用に設定されているため、これらを更新または表示することはできません。エージェントは、CCO (<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/cmva-3des>) からダウンロードできます。

CSA for Cisco CallManager に含まれているルールおよびポリシーの追加、変更、削除、表示が必要な場合、またはシスコ未承認のサードパーティ製アプリケーションのサポートを追加する必要がある場合は、CSA MC を購入してインストールしてください。CSA MC には、管理センターとして使用する別個の専用サーバが必要です。この管理センターを使用すると、他のネットワーク システムやサーバにインストールされているエージェントに配布するためのエージェント キットを作成することができます。

Cisco Security Agent に関する情報を入手するには、
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/sec_vir/index.htm および
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/rtrmgmt/cw2000/cw2000_b/vpnman/vms_2_2/csa_4_0/index.htm を参照してください。

**注意**

Cisco IP テレフォニー アプリケーションが Cisco CallManager サーバでサポートされているかどうか不明な場合は、インストールしないでください。

アップグレードする際に、他にも注意が必要な情報はありますか

本書では、クラスタ内のすべてのサーバが現在稼働状態であることを前提としています。

セキュリティ ポリシーおよびアカウント ポリシーについて

**注意**

セキュリティ ポリシーまたはアカウント ポリシーをデフォルトから変更すると、アップグレードが失敗する場合があります。セキュリティ ポリシーおよびアカウント ポリシーの詳細については、Microsoft の資料を参照してください。

Cisco CallManager Administration のサービス パラメータとエンタープライズパラメータについて

Cisco CallManager は非数値のサービス パラメータを常に推奨値に更新します。

サービス パラメータを推奨値に設定されている場合、Cisco CallManager はアップグレード中に新しい推奨値に合せて自動的に値を更新します。

カスタマイズ値が最小値と最大値の範囲内にある場合は、Cisco CallManager は値を変更しません。

最小値と最大値の範囲内でないカスタマイズ値を設定した場合、値はアップグレード中に最大値または最小値に変更されます。たとえば、最大値が 10 で、設定値が 12 である場合、Cisco CallManager は自動的に値を 10 に設定します。

アップグレード中、サービス全体に適用されないパラメータのいくつかは、クラスタ全体に適用されるパラメータ（正式にはサービス全体に適用されるパラメータと呼ばれます）に変更される場合があります。

H.323 クラスタ間トランクについて

Cisco CallManager Administration の複数の H.323 クラスタ間トランクに割り当てられているのと同じデバイス名が、複数の Cisco CallManager クラスタにある場合は、登録の問題が発生します。H.323 クラスタ間トランクにはそれぞれ一意のデバイス名を割り当てます。トランクを設定する手順については、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

H.323 Gateways について

H.323 Gateways 用の Cisco CallManager Administration では、H.225D On Every Node オプションは提供されなくなりました。アップグレード前に、割り当てるデバイス プロファイルですべての H.323 ダイアルピアが Cisco CallManager サーバを指していることを確認します。ダイアルピアのセッションターゲット ステートメントが該当する Cisco CallManager サーバを指していない場合、コールは失敗します。

データベースについて

Cisco CallManager をアップグレードすると、データベース名が自動的に増分されます。たとえば、CCM0300 から CCM0301 になります。サードパーティ製の CDR ソフトウェアには、SQL トリガーが元のデータベース名にハードコーディングされている場合があります。この場合、トリガーは以前のデータベース名を指すので、すべての CDR フラット ファイルがパブリッシャ データベース サーバ上の誤ったディレクトリに書き込まれます。この問題についてのテクニカル サポートが必要な場合は、サードパーティ製ソフトウェアのベンダーに直接連絡してください。

アップグレード後の作業はいつ実行するべきですか

クラスタ内のすべてのサーバでアップグレードが完了するまで、アップグレード後の作業は実行しないでください。

アップグレード中に問題が発生したらどうすればよいですか

アップグレード中に問題が発生したら、次の処置を行ってください。

1. アップグレード中、ダイアログボックスにエラー メッセージが表示された場合は、[P.5-1 の「アップグレード メッセージ」](#)を参照して、推奨されている修正処置を行ってください。
2. 次のディレクトリからすべてのログ ファイル（*.log および *.txt）を取得して調査します。
 - C:\Program Files\Common Files\Cisco\Logs
 - C:\Program Files\Common Files\Cisco\Directory
 - C:\Install\DBInstall
 - C:\Dcdsrvr\log

ログ ファイルに表示されるエラー メッセージがすべて重大とは限りません。MSI によってログ ファイルにエラー メッセージが生成される理由はさまざまです。たとえば、Cisco CallManager によって使用されていないサービスにアクセスしようとしています。



Cisco CallManager サーバの アップグレード (ハードウェアを交換しない場合)

Cisco CallManager Release 3.2 またはそれ以前のバージョンから Cisco CallManager Release 4.2 に直接アップグレードすることはできません。サーバで Cisco CallManager Release 3.2 またはそれ以前のバージョンを実行している場合は、クラスタ内のすべてのサーバを Cisco CallManager Release 3.3、4.0、または 4.1 の最新バージョンにアップグレードしてから Cisco CallManager Release 4.2 にアップグレードする必要があります。Cisco CallManager Release 3.3 へのアップグレードについては、『Cisco CallManager Release 3.3 アップグレード手順』の最新バージョンを参照してください。



(注)

Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。

Cisco CallManager 4.0 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。


どのバージョンの Cisco CallManager がアップグレード可能なかを確認するには、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。

クラスタ内のパブリッシャ データベース サーバとすべてのサブスクリバ サーバで Cisco CallManager をアップグレードする必要があります。アップグレードの順序については、P.1-5 の「クラスタ内のどのサーバを最初にアップグレードするのですか」を参照してください。

始める前に

アップグレードを開始する前に、必ず次の作業を行ってください。

	アップグレード前の作業	関連項目
ステップ 1	クラスタ内のすべてのサーバで推奨バージョンの Cisco CallManager を実行していることを確認する。	Cisco CallManager Release 4.2(1) には、どのバージョンの Cisco CallManager からアップグレードできますか (P.1-3)
ステップ 2	クラスタをアップグレードする順序を確認する。	クラスタ内のどのサーバを最初にアップグレードするのですか (P.1-5) Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか (P.1-6)
ステップ 3	Cisco CallManager Administration の Server Configuration ウィンドウ (System > Server) で、各サーバを追加したのが 1 度だけであることを確認する。ホスト名を使用してサーバを追加し、IP アドレスを使用して同一のサーバを追加した場合、Cisco CallManager のアップグレード後、Cisco CallManager はそのサーバのコンポーネントのバージョンを正確に判別することができなくなります。Cisco CallManager Administration に同一サーバのエントリが 2 つある場合は、アップグレードする前に一方のエントリを削除してください。	『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。
ステップ 4	ご使用のサーバ構成がこのアップグレードをサポートしていることを確認する。	このアップグレードでシスコがサポートしているサーバおよびオペレーティング システムのバージョンはどれですか (P.1-3)
ステップ 5	Cisco CallManager のアップグレードを行うために、各サーバに十分な空きディスク スペースがあることを確認する。 Cisco CallManager ディスクを使用してアップグレードする場合、2.0 ギガバイトのディスク スペースが必要です。 Web ファイルを使用してアップグレードする場合、3.0 ギガバイトのディスク スペースが必要です。	
ステップ 6	ボイスメッセージ システムとして Cisco Unity を利用している場合は、適切な移行が確実に行われるように Cisco CallManager ボイスメール ポートを設定する。	詳細については、『Release Notes for Cisco CallManager』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。
ステップ 7	H.323 クラスタ間トランクにはそれぞれ一意のデバイス名を割り当てる。Cisco CallManager Administration の H.323 クラスタ間トランクに割り当てられているのと同じデバイス名が、複数の Cisco CallManager クラスタにある場合は、登録の問題が発生します。	トランクを設定する手順については、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

アップグレード前の作業	関連項目
<p>ステップ 8 アップグレード前に、割り当てるデバイス プロファイルですべての H.323 ダイアルピアが Cisco CallManager サーバを指していることを確認する。H.323 Gateways 用の Cisco CallManager Administration では、H.225D On Every Node オプションは提供されなくなりました。ダイアルピアのセッション ターゲット ステートメントが該当する Cisco CallManager サーバを指していない場合、コールは失敗します。</p>	<p>ゲートウェイを設定する手順については、『<i>Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド</i>』を参照してください。</p>
<p>ステップ 9 サーバにインストールされているすべての共存ソフトウェア アプリケーションについて、推奨されるバックアップ手順を実行する。</p> <p> 注意 バックアップを完了しない場合、データや設定内容が失われることがあります。バックアップの実行についての情報は、アプリケーションをサポートしているマニュアルを参照してください。</p> <p>Cisco IP Telephony Backup and Restore System(BARS)はオペレーティング システムのファイルはバックアップしません。ただし、Host ファイルおよび LMhost ファイルがサーバに存在する場合、これらはバックアップされます。</p> <p>ユーティリティによってバックアップされるファイルの一覧については、『<i>Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide</i>』を参照してください。本書の最新版を入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm にアクセスしてください。</p>	<p>Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか (P.1-6)</p>
<p>ステップ 10 セキュリティ ポリシーまたはアカウント ポリシーをデフォルトから変更すると、アップグレードが失敗する場合があります。</p>	<p>セキュリティ ポリシーおよびアカウント ポリシーの詳細については、Microsoft の資料を参照してください。</p>

■ 始める前に

アップグレード前の作業	関連項目
<p>ステップ 11 Cisco CallManager がサービス パラメータを更新する方法を理解する。</p> <p>非数値のサービス パラメータの場合</p> <p>Cisco CallManager は非数値のサービス パラメータを常に推奨値に更新します。</p> <p>数値のサービス パラメータの場合</p> <p>サービス パラメータを推奨値に設定されている場合、Cisco CallManager はアップグレード中に新しい推奨値に合わせて自動的に値を更新します。</p> <p>カスタマイズ値が最小値と最大値の範囲内にある場合は、Cisco CallManager は値を変更しません。</p> <p>最小値と最大値の範囲内でないカスタマイズ値を設定した場合、値はアップグレード中に最大値または最小値に変更されます。たとえば、最大値が 10 で、設定値が 12 である場合、Cisco CallManager は自動的に値を 10 に設定します。</p> <p>アップグレード中、サービス全体に適用されないパラメータのいくつかは、クラスタ全体に適用されるパラメータ（正式にはサービス全体に適用されるパラメータと呼ばれます）に変更される場合があります。</p>	<p>サービス パラメータの詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』および『Cisco CallManager システム ガイド』を参照してください。</p>
<p>ステップ 12 Cisco CallManager 4.0 サーバをアップグレードしていて、Certificate Authority Proxy Function (CAPF) サーバを使用する電話機に証明書をインストールした場合は、既存の CAPF データを移行する。</p>	<p>既存の CAPF データの移行 (P.2-5)</p>
<p>ステップ 13 すべての Web ブラウザ ウィンドウを閉じる。</p>	<p>開いているウィンドウがある場合、Sun Microsystems JRE パッケージのインストール後、Cisco CallManager によってサーバがリブートします。</p>
<p>ステップ 14 すべての Cisco CallManager エクステンション モビリティ ユーザがアップグレード前にシステムからログアウトしたことを確認する。</p>	<p>アップグレード中にログインしたままのエクステンション モビリティ ユーザがいる場合、それらのユーザはログオフして再度ログインするまで、電話機の一部の機能を使用できない可能性があります。</p>
<p>ステップ 15 アップグレード前に、ローカル Administrator アカウントのパスワード、SQL サーバの SA パスワード、プライベート パスワード フレーズ、およびパブリッシャ データベース サーバのコンピュータ名を入手する。</p>	<p>アップグレード中に必要となる場合がある情報 (P.2-7)</p>
<p>ステップ 16 アップグレード前に、現在のすべての Cisco パートナーおよび加盟企業が製造するアプリケーションと製品について、基本的な接続性と機能に関するテストを現在の（アップグレード前の）環境で実行する。アップグレード後の手順で使用するために、テストの内容と結果を文書化します。</p>	

	アップグレード前の作業	関連項目
ステップ 17	Cisco パートナーまたは加盟企業のソフトウェア(適切なバージョンのもの) およびこのバージョンの Cisco CallManager をサポートするために必要なマニュアルを入手し、確認する。	このアップグレードでシスコがサポートしているサードパーティ製アプリケーションはどれですか (P.1-4)

既存の CAPF データの移行



注意

ここで説明する作業を実行しないと、CAPF データが失われる場合があります。

Cisco CallManager をアップグレードする前に、次の事項を確認します。

- Cisco CallManager 4.0 パブリッシャ データベース サーバに CAPF がインストールされていた場合の Cisco CallManager 4.0 からのアップグレード：Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に証明書操作を実行し、CAPF がパブリッシャ データベース サーバで実行された場合、最新の操作ステータスは Cisco CallManager 4.2 データベースに移行されます。
- Cisco CallManager 4.0 サブスクリバ サーバに CAPF がインストールされていた場合の Cisco CallManager からのアップグレード：Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に証明書操作を実行し、CAPF がサブスクリバ サーバで実行された場合、クラスタを Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に CAPF データを 4.0 パブリッシャ データベース サーバにコピーする必要があります。

4.0 サブスクリバサーバから 4.0 パブリッシャ データベース サーバへの CAPF 1.0(1) データのコピー



注意

CAPF ユーティリティ 1.0(1) が Cisco CallManager 4.0 サブスクリバサーバにインストールされている場合は、Cisco CallManager 4.2 にアップグレードする前に、CAPF データを 4.0 パブリッシャ データベース サーバにコピーする必要があります。この作業を実行しないと、CAPF データが失われます。たとえば、C:\Program Files\Cisco\CAPF\CAPF.phone にある電話機の記録ファイルが失われることがあります。データが失われても、CAPF ユーティリティ 1.0(1) を使用して発行したローカルで有意の証明書は電話機に残りますが、無効な証明書については、CAPF 4.2(1) は再発行する必要があります。

ファイルをコピーするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** 表 2-1 のファイルを、CAPF 1.0 がインストールされているマシンから Cisco CallManager 4.0 がインストールされているパブリッシャ データベース サーバにコピーします。

表 2-1 サーバからサーバへのコピー

コピーするファイル	コピー元(CAPF 1.0 がインストールされているマシン)	コピー先(Cisco CallManager 4.0 がインストールされているパブリッシャ データベース サーバ)
*.0	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\Certificates
CAPF.phone	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\CAPF
CAPF.cfg ファイル	C:\Program Files\Cisco\CAPF	C:\Program Files\Cisco\CAPF

- ステップ 2** クラスタ内のすべてのサーバを Cisco CallManager 4.2 にアップグレードします。
- ステップ 3** クラスタを Cisco CallManager 4.2 にアップグレードしたら、Cisco CTL クライアントをアップグレードし、電話機を使用する前にそのクライアントを実行します。Cisco CTL クライアントは CAPF 証明書をクラスタ内のすべてのサーバにコピーします。
- ステップ 4** Cisco CallManager 4.0 で使用していた CAPF ユーティリティを削除します。表 2-1 を参照してください。

アップグレード中に必要となる場合がある情報

アップグレード手順を実行するときは、次の表の情報を使用してください。



注意 ローカル Administrator アカウントおよび SA (SQL Server システム管理者) アカウントを入力する場合は、英数字の文字だけを入力してください。アカウントのパスワードは、クラスタ内のすべてのサーバで一致する必要があります。各アカウントについては、クラスタ内のすべてのサーバで同じパスワードを入力する必要があります。



アップグレード時に、プライベート パスワード フレーズのプロンプトが表示されます。アップグレードでは、ユーザが入力した文字列を使用して一意の暗号化パスワードを作成します。クラスタ内のすべてのサーバに同じフレーズを入力する必要があります。


表 2-2 アップグレード中に必要となる場合がある情報



データ	ユーザ使用欄
バックアップ時のバックアップ ファイルの保存先	
ワークグループ名	
会社名	
パブリッシャ データベース サーバのコンピュータ名	
ローカル Administrator アカウントのパスワード (クラスタ内のすべてのサーバについて同じパスワード)	
LDAP (DC) Directory Manager のパスワード (クラスタ内のすべてのサーバについて同じパスワード)	
SQL Server の SA パスワード (クラスタ内のすべてのサーバについて同じパスワード)	
クラスタのプライベート パスワード フレーズ (クラスタ内のすべてのサーバについて同じフレーズ)	

Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバのアップグレード

次を参照して、アップグレード作業、作業の指定時間、手順を入手する場所を確認してください。

作業	手順	作業の実行にかかる時間
ステップ 1 アップグレード前の作業をすべて実行したことを確認する。	P.2-2 の「始める前に」および P.2-7 の「アップグレード中に必要となる場合がある情報」を参照してください。	クラスタのサイズによって異なる
ステップ 2 クラスタ内のすべてのサーバを NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインから削除する。	P.2-11 の「NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリポートする（設定されている場合は必須）」を参照してください。  ヒント この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。	クラスタのサイズによって異なる
ステップ 3 クラスタ内のサーバで稼働しているプラットフォーム エージェント、シスコ認定のアプリケーション（Cisco Partner Applications）シスコ提供の共存アプリケーションをすべて手動で無効にして停止する。サーバをリポートします。	パフォーマンス モニタリング サービス（NetIQ など）、アンチウィルス サービス（シスコ認定の McAfee サービス）、侵入検知サービス（たとえば Cisco Security Agent）、リモート管理サービスなどのプラットフォーム エージェントおよびサービスを無効にすると、これらのサービスに関連する問題がアップグレード中に発生することを防止できます。 P.2-12 の「サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリポートする（必須）」を参照してください。  ヒント この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。	20 分
ステップ 4 CIPT Backup and Restore System (BARS) バージョン 4.0(7)（またはそれ以降）を手動でインストールして設定する。	パブリッシャ データベース サーバにバックアップ ユーティリティをインストールして設定することを推奨します。 CIPT Backup and Restore System (BARS) はオペレーティング システムのファイルはバックアップしません。ただし、Host ファイルおよび LMhost ファイルがサーバに存在する場合、これらはバックアップされます。ユーティリティによってバックアップされるファイルの一覧については、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm にアクセスしてください。	15 分

作業	手順	作業の実行にかかる時間
ステップ 5 Backup and Restore System (BARS) バージョン 4.0(7) (またはそれ以降) を使用して、Cisco CallManager データをネットワーク ディレクトリまたはテープ ドライブに手動でバックアップする。	システムのバックアップについては、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm にアクセスしてください。  ヒント システムのバックアップを行う前に CDR をアーカイブするか、削除しておく、Cisco CallManager のアップグレードに要する時間が大幅に短縮されます。	Cisco CallManager の規模および Call Detail Record (CDR) のデータベースのサイズにより 30 ~ 60 分
ステップ 6 クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行する。 この作業を実行するときは、パブリッシャ データベース サーバから開始して、クラスタ内のサーバを一度に 1 台ずつ処理します。	Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility は、アップグレード前にサーバが正常な状態であることを確認します。この作業を実行するときは、パブリッシャ データベース サーバから開始して、クラスタ内のサーバを一度に 1 台ずつ処理します。 P.2-14 の「クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行する (強く推奨)」 を参照してください。	パブリッシャ データベース サーバの場合は 1 ~ 20 分、サブスクリバ サーバの場合は 1 ~ 5 分
ステップ 7 サーバでドライブの取り外しがサポートされている場合は、サーバからドライブを取り外してデータと設定を保存する。	P.2-14 の「ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングする (強く推奨)」 を参照してください。	サーバのタイプにより 15 ~ 60 分
ステップ 8 オペレーティング システム アップグレード CD-ROM を利用するか、またはオペレーティング システム アップグレードを Web からダウンロードして、オペレーティング システムをシスコ提供のバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードする。	アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム 暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、 http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。 パブリッシャ データベース サーバで最初に実行し、パブリッシャ データベース サーバでの Cisco CallManager のアップグレードを完了してから、サブスクリバ サーバでオペレーティング システムをアップグレードします。	サーバのタイプにより、サーバ当たり 45 ~ 75 分
ステップ 9 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をダウンロードして、インストールします。(必須)	オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。 インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。	15 分

作業	手順	作業の実行にかかる時間
ステップ 10 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。（推奨）	<p>オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。</p> <p>インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、[¶] <i>Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates</i>、および[¶] <i>Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server</i> を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。</p>	5 分
ステップ 11 Cisco CallManager をアップグレードする。	<p>Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。</p> <p>Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。</p> <p> 注意 Cisco CallManager のインストールは順次、つまり一度に 1 台のサーバで実行する必要があります。サーバをリブートし、サーバがパブリッシャ データベース サーバからサブスクリプションを取り出したことを確認したら、次のサーバでアップグレードを開始できます。</p> <p>P.2-16 の「ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード」を参照してください。</p>	サーバのタイプにより、サーバ当たり 45 ~ 120 分
ステップ 12 クラスタ内のサブスライバ サーバをすべてアップグレードする。	<p>P.2-20 の「Cisco CallManager サブスライバ サーバのアップグレード」の手順を参照してください。</p> <p> (注) クラスタへのサブスライバ サーバの追加は、以前のバージョンの Cisco CallManager をサブスライバ サーバにインストールし、その後でパブリッシャ サーバと同じバージョンにアップグレードするという方法によって行うことはできません。クラスタ上で新規のサブスライバ サーバを追加する、またはサブスライバ サーバを置き換える場合は、パブリッシャ サーバで実行されている Cisco CallManager と同じバージョンのインストール CD を使用する必要があります。</p>	クラスタのサイズによって異なる

NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする（設定されている場合は必須）



ヒント

この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。

リブートを同時に実行すると、コール処理が中断されます。



注意

アップグレード中にドメイン内にサーバが存在すると、サーバ間の認証が失敗したり、デフォルト以外のドメイン セキュリティ ポリシーによって、Cisco CallManager による重要な NT アカウントの作成が制限される場合があります。ドメインからのシステムの削除およびワークグループへのシステムの追加に失敗すると、アップグレード エラーが発生する、アップグレードが失敗する、またはデータが失われて Cisco CallManager を最初から再インストールする必要が生じるなど、システム全体の障害となる場合があります。クラスタ内のすべてのサーバのアップグレード手順が完了するまで、サーバをドメイン内に戻さないでください。

次の手順を実行して、NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインに存在するサーバをすべて転用します。

手順

- ステップ 1** Start > Settings > Control Panel > System を選択します。
- ステップ 2** Network Identification タブをクリックします。
- ステップ 3** Properties ボタンをクリックします。
- ステップ 4** Workgroup オプション ボタンをクリックし、対応するフィールドに WRKGRP などの名前を入力します。
- ステップ 5** OK をクリックします。
- ステップ 6** プロンプトが表示されたら、サーバを再起動します。
- ステップ 7** Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。
- ステップ 8** この手順は、NT ドメイン内に存在するクラスタ内のすべてのサーバに対して実行します。
- ステップ 9** ドメイン コントローラに移動して、クラスタ内にある各 Cisco CallManager サーバのコンピュータ アカウントを削除します。

サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする（必須）



ヒント

この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行する必要があります。

リブートにより、コール処理が中断される場合があります。

インストール前に無効にする必要があるシスコ認定アプリケーションのリストを参照するには、<http://www.cisco.com/pcgi-bin/ecoa/Search> をクリックします。Solution ペインで、IP Telephony をクリックします。Solution Category ドロップダウン リスト ボックスから **Operations, Administration, and Maintenance (OAM)** を選択します。Search をクリックします。

アンチウイルス サービス、侵入検知サービス（たとえば、Cisco Security Agent）、OEM サーバ エージェント、サーバ管理エージェント、VOIP モニタリング / パフォーマンス モニタリング、またはリモート アクセス / リモート管理エージェントなどのプラットフォーム エージェントは、Cisco CallManager のインストールを妨げる可能性があります。パフォーマンス モニタリング サービス（NetIQ など）、アンチウイルス サービス（シスコ認定の McAfee サービス）、侵入検知サービス、リモート管理サービスなど、プラットフォーム エージェントおよびサービスを無効にすると、これらのサービスに関連する問題が発生することを防止できます。

本書では、シスコ認定の McAfee アンチウイルス サービスを無効にする手順だけを説明しています。その他のサービスまたはアプリケーションを無効にする手順についてヘルプが必要な場合は、製品に付属のマニュアルを参照してください。

McAfee アンチウイルス サービスを無効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Start > Settings > Control Panel > Administrative Tools > Services を選択します。

ステップ 2 Services ウィンドウから、アンチウイルス サービス（Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager、または McAfee Framework Service）のいずれかを右クリックし、**Properties** を選択します。



(注) アンチウイルス サービスの名前は、アンチウイルス ソフトウェアのバージョンに依存します。

ステップ 3 Properties ウィンドウに General タブが表示されていることを確認します。

ステップ 4 Service Status 領域で、**Stop** をクリックします。

ステップ 5 Startup type ドロップダウン リスト ボックスから、**Disabled** を選択します。

ステップ 6 OK をクリックします。

ステップ7 シスコ認定のすべての McAfee アンチウイルス サービス(Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager) に対して、**ステップ 1 ~ ステップ 6** を実行します。

ステップ8 サーバをリポートして、サービスが実行されていないことを確認します。

**注意**

リポート後にサービスが起動しないことを確認してください。

**注意**

現在、シスコ認定のアンチウイルス ソフトウェアまたは侵入検知ソフトウェアをサーバにインストールしていない場合は、クラスタ内の全サーバのアップグレードまたはインストールを完了するまで、これらのソフトウェアをインストールしないことを強く推奨します。

CIPT Backup and Restore (BARS) バージョン 4.0(7) (またはそれ以降) をインストールして設定する (強く推奨)

パブリッシャ データベース サーバにバックアップユーティリティをインストールして設定することを推奨します。CIPT Backup and Restore System (BARS) はオペレーティングシステムのファイルはバックアップしません。ただし、Host ファイルおよび LMhost ファイルがサーバに存在する場合、これらはバックアップされます。

ユーティリティによってバックアップされるファイルの一覧については、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。本書の最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

既存のデータをバックアップする (強く推奨)

システムのバックアップについては、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。本書の最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行する（強く推奨）



ヒント

この作業を実行するときは、パブリッシャ データベース サーバから開始して、クラスタ内のサーバを一度に 1 台ずつ処理します。

リポートにより、コール処理が中断される場合があります。

必須アイテム：Web からのユーティリティのダウンロード

アップグレード前に最新の Cisco CallManager Upgrade Assistant Utility を実行して、サーバが正常な状態であることを確認します。Web 上で、ユーティリティの隣に配置されているマニュアルには、ユーティリティについての詳細が説明されています。最新バージョンのユーティリティとマニュアルを入手するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。
- ステップ 2** Cisco CallManager Version 4.2 をクリックします。
- Cisco CallManager 4.2 ソフトウェア ページが表示されます。
- ステップ 3** マニュアルを探してダウンロードします。
- ステップ 4** マニュアルを参照して、Cisco CallManager がインストールされているクラスタ内のすべてのサーバにユーティリティをダウンロードして実行します。
-

ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングする（強く推奨）

必須アイテム：新規に購入したハード ドライブ

サーバが MCS-7815、MCS-7820、MCS-7822、MCS-7825、またはお客様が用意する IBM xSeries 330 である場合、ドライブは取り外しできません。

データのバックアップに成功したことを確認したら、ドライブを取り外して設定したデータを保管できます。ただし、オペレーティング システムの手順を開始する前に、代替のドライブを取り付ける必要があります。場合によっては、この作業のために新しいドライブを購入する必要があります。

このプロセスには、ドライブのサイズに応じて、30 ~ 60 分かかります。

ドライブを取り外し、代替のドライブを取り付けてドライブをミラーリングするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** パブリッシャ データベース サーバの電源をオフにします。

ステップ 2 MCS-7845 を除くすべてのサーバに対して、スロット 0 からハード ドライブを取り外し、マシン名、スロット番号、および Cisco CallManager の現在のバージョンを記入したラベルを貼付します。

MCS-7845 では、スロット 0 および スロット 2 からドライブを取り外します。

ステップ 3 システムの電源をオンにします。

Cisco MCS

ステップ 4 Cisco MCS に対して次の手順を実行します（MCS-7845 には予備のハード ドライブが 2 つ必要です）。

a. F2 キーを押して、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 で一時回復モードを有効にします。



(注) MCS-7835H-2.4（またはそれ以降）および MCS-7845H-2.4（またはそれ以降）では、デフォルトは F2 に設定され、10 秒後に自動的に処理を続行します。

b. このステップは、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 にだけ適用されます。

プロンプトが表示されたら、F1 キーを押し、続行します。

c. Windows 2000 のブートが終了したら、代替のハード ドライブを スロット 0 に取り付けます。



(注) MCS-7845 では、スロット 0 のドライブに対するミラーリング プロセスが完了するまで、スロット 2 に代替のドライブを取り付けしないでください。

d. MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 で、**Start > Compaq Systems Tools > Compaq Array Configuration Utility** を選択します。Array Configuration Utility Warning ウィンドウが表示されたら、**OK** をクリックします。

e. 画面の右下にあるステータスバーで、ミラーリング プロセスの終了を確認します。

f. このステップは、MCS-7845 にだけ適用されます。

スロット 0 でミラーリング プロセスが完了したら、スロット 2 に次のドライブを取り付けます。スロット 2 にドライブを取り付けると、ミラーリング プロセスが自動的に実行されます。

IBM xSeries サーバ

ステップ 5 IBM xSeries サーバに対しては、次の手順を実行します。

a. スロット 0 に代替のドライブを取り付けます。

b. F5 キーを押します。

c. **Start > Programs > ServeRaid Manager > ServeRaid Manager** を選択します。ドライブのミラーリングの進行状況が表示されます。

オペレーティングシステムをシスコが提供するバージョン 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードする（必須）

アップグレードを実行する前に、オペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティングシステムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

パブリッシャ データベース サーバで最初にアップグレードを実行し、パブリッシャ データベース サーバでの Cisco CallManager のアップグレードを完了してから、サブスクリバサーバでオペレーティングシステムをアップグレードします。

Cisco CallManager Release 4.2(1) にアップグレードする前に、最新のサービス リリース付き Cisco IP Telephony オペレーティングシステム バージョン 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードすることを推奨します。Cisco IP Telephony オペレーティングシステム バージョン 2000.4.2 Service Release 1 用のアップグレード インストーラ ファイルは、win-OS-Upgrade-K9.2000-4-2sr2.exe です。

Cisco IP Telephony Server Operating System Service Release をダウンロードしてインストールする（必須）

最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース（2000.4.2sr2 またはそれ以降）をダウンロードして、インストールします。オペレーティングシステム サービス リリースは、音声製品のオペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする（推奨）

オペレーティングシステムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード



(注)

Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。

Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。

**(注)**

Cisco CallManager に必須であり、かつこれによってインストールされる重要なサードパーティ製コンポーネントには、インストール中に複数回のリブートを必要とするものがあります。また、手動によるインストール プログラムの再実行および設定データのを入力を必要とするものもあります。

必須アイテム：Cisco CallManager 4.2(1) Installation and Recovery Disk または Cisco CallManager 4.2(1) Web ダウンロード ファイル

次の手順を実行してください。

手順

ステップ 1 オペレーティング システムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のパスワードを使用してサーバにログインします。

ステップ 2 ディスクと Web のどちらを使用してアップグレードするかを選択します。

- ディスクを使用する場合：ステップ 3 ~ ステップ 4
- Web ファイルを使用する場合：ステップ 5 ~ ステップ 11

ディスクを使用する場合

ステップ 3 Cisco CallManager 4.2 Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を用意し、ドライブに挿入します。

インストール プロセスが自動的に開始します。



ヒント 手順で指示されるまで、ディスクを取り出さないでください。

ステップ 4 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）」に進み、アップグレードを続行します。

Web ファイルを使用する場合

ステップ 5 <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。

ステップ 6 Cisco CallManager Version 4.2 をクリックします。

ステップ 7 Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード ファイルをハード ドライブにダウンロードします。

ステップ 8 ダウンロードしたファイルを保存した場所を記録します。

ステップ 9 ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

ステップ 10 このファイルを Web アップグレードのためだけに実行することを確認するメッセージが表示されます。Yes をクリックします。

Preparing To Install ウィンドウが表示されます。インストールの準備に数分かかります。

- ステップ 11** 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）」に進み、アップグレードを続行します。

関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）

次の手順を実行して、アップグレードを続行します。



(注)

オペレーティングシステムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のアカウントを使用してサーバにログインします。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager のアップグレード前およびアップグレード後のバージョンを確認するには、**Yes** をクリックします。
- ステップ 2** アンチウイルスおよび侵入検知ソフトウェアを無効にしたことを確認するには、**Yes** をクリックします。



ヒント

ここでサービス パックをインストールした場合は、サービス パックをインストールしてサーバをリブートした後に、Cisco CallManager Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 をもう一度挿入します。Cisco IP テレフォニー アプリケーションがインストール準備を行う間、待機します。

- ステップ 3** 重要なサードパーティ製コンポーネントを Cisco CallManager がインストールするために、サーバのリブートおよび設定データの入力が複数回必要になる場合があることを確認し、**OK** をクリックします。
- ステップ 4** **I accept the terms in the license agreement** オプション ボタンをクリックして Cisco CallManager 使用許諾に同意し、その後 **Next** をクリックします。
- ステップ 5** Welcome ウィンドウで **Next** をクリックします。
- ステップ 6** Administrator Password / Private Password ウィンドウで、次の操作を行います。
- 管理者のパスワードを入力します。
 - クラスタのプライベート パスワード フレーズを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
 - Next** をクリックします。
- ステップ 7** Database パスワード ウィンドウで、次の操作を行います。
- SQL システム管理者(SA)パスワードを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
 - Next** をクリックします。

ステップ 8 インストールを開始するには、**Install** をクリックします。

ステップ 9 サーバをリブートしてインストールを続行するには、**OK** をクリックします。

ステップ 10 サーバのリブート後、Windows Administrator アカウントでログインします。

インストールが開始されます。ステータス ウィンドウが開いて、インストールの進行状況が表示されます。Cancel はクリックしないでください。



(注) ステータス バーに表示されるインストールの進行状況は、各ソフトウェア パッケージがインストールされているとき、およびインストール プログラムがユーザのマシンを構成しているときにリセットされる場合があります。インストール プログラムによっては、ステータス バーは複数回リセットされることがあります。インストール プログラムが要求しない限り、サーバをリブートしないでください。

ステップ 11 Cisco CallManager 4.2(1) インストール ディスクを使用している場合、次のアップグレード ディスクを挿入する必要があることを示すメッセージが表示されます。次のステップに従ってください。

- a. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 2 を挿入して、**OK** をクリックします。

最初のアップグレード ディスクをもう一度インストールする必要があるというメッセージが表示されます。

- b. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を挿入して、**OK** をクリックします。

ステップ 12 **Finish** をクリックします。


ステップ 13 **Yes** をクリックして、サーバをリブートします。



Cisco CallManager サブスクリバサーバのアップグレード



(注) クラスタへのサブスクリバサーバの追加は、以前のバージョンの Cisco CallManager をサブスクリバサーバにインストールし、その後でパブリッシャサーバと同じバージョンにアップグレードするという方法によって行うことはできません。クラスタ上で新規のサブスクリバサーバを追加する、またはサブスクリバサーバを置き換える場合は、パブリッシャサーバで実行されている Cisco CallManager と同じバージョンのインストール CD を使用する必要があります。

サブスクリバサーバをアップグレードするには、次の作業を実行します。

作業	重要な情報およびリソース
ステップ 1 アップグレードの準備作業を実行する。	P.2-2 の「始める前に」および P.2-7 の「アップグレード中に必要となる場合がある情報」を参照してください。
ステップ 2 NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからすべてのサーバを削除したことを確認する。	P.2-22 の「NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする(設定されている場合は必須)」を参照してください。
ステップ 3 サーバで実行するサードパーティ製、シスコ認定およびシスコ提供による共存アプリケーションをすべて無効にし、停止したことを確認する。サーバをリブートしたことを確認する。	P.2-23 の「サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする(必須)」を参照してください。
ステップ 4 オプションの作業 ServPrep ユーティリティを実行する。	このユーティリティを実行するには、Cisco CallManager Subscriber Preparation Disk が必要です。シスコは、このユーティリティを Web では提供していません。 P.2-24 の「ServPrep ユーティリティを実行する(オプション)」を参照してください。
ステップ 5 オペレーティングシステムアップグレード CD-ROM を利用するか、またはオペレーティングシステムアップグレードを Web からダウンロードして、オペレーティングシステムをシスコ提供のバージョン 2000.4.2sr2(またはそれ以降)にアップグレードする。	アップグレードを実行する前に、オペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティングシステムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、 http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。
	 注意 必要であれば、クラスタ内のすべてのサブスクリバサーバで同時にオペレーティングシステムをアップグレードすることができます。この作業により、コール処理が中断されます。

作業	重要な情報およびリソース
ステップ 6 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース（2000.4.2sr2 またはそれ以降）をダウンロードして、インストールする。（必須）	<p>オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。</p> <p>インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。</p>
ステップ 7 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。（推奨）	<p>オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。</p> <p>インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml にアクセスしてください。</p>
ステップ 8 順次に行う作業 一度に 1 台のサーバで Cisco CallManager のアップグレードを実行する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>注意 サブスクリバサーバをアップグレードしているときに、パブリッシャサーバをリブートしないでください。</p> </div> <p>Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェアキットに付属するディスクを使用する必要があります。</p> <p>Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェアキットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>注意 Cisco CallManager のインストールは順次、つまり一度に 1 台のサーバで実行する必要があります。サーバをリブートし、サーバがパブリッシャ データベース サーバからサブスクリプションを取り出したことを確認したら、次のサーバでアップグレードを開始できます。</p> </div> <p>パブリッシャ データベース サーバとサブスクリバサーバに使用する Cisco CallManager Installation, Upgrade, and Recovery Disk または Web ダウンロードは同じものです。</p> <p>P.2-25 の「ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード」を参照してください。</p>
ステップ 9 クラスタ内のすべてのサーバでインストールが完了したら、アップグレード後の作業を実行する。	<p>P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。</p>

NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインからシステムを削除してサーバをリブートする（設定されている場合は必須）



ヒント

この作業はクラスタ内のすべてのサーバで同時に実行することができます。

リブートを同時に実行すると、コール処理が中断されます。



注意

アップグレード中にドメイン内にサーバが存在すると、サーバ間の認証が失敗したり、デフォルト以外のドメイン セキュリティ ポリシーによって、Cisco CallManager による重要な NT アカウントの作成が制限される場合があります。ドメインからのシステムの削除およびワークグループへのシステムの追加に失敗すると、アップグレード エラーが発生する、アップグレードが失敗する、またはデータが失われて Cisco CallManager を最初から再インストールする必要が生じるなど、システム全体の障害となる場合があります。クラスタ内のすべてのサーバのアップグレード手順が完了するまで、サーバをドメイン内に戻さないでください。

次の手順を実行して、NT ドメインまたは Microsoft Active Directory ドメインに存在するサーバをすべて転用します。

手順

- ステップ 1** Start > Settings > Control Panel > System を選択します。
- ステップ 2** Network Identification タブをクリックします。
- ステップ 3** Properties ボタンをクリックします。
- ステップ 4** Workgroup オプション ボタンをクリックし、対応するフィールドに WRKGRP などの名前を入力します。
- ステップ 5** OK をクリックします。
- ステップ 6** プロンプトが表示されたら、サーバを再起動します。
- ステップ 7** Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。
- ステップ 8** この手順は、NT ドメイン内に存在するクラスタ内のすべてのサーバに対して実行します。
- ステップ 9** ドメイン コントローラに移動して、クラスタ内にある各 Cisco CallManager サーバのコンピュータ アカウントを削除します。

サードパーティ製、シスコ認定、およびシスコ提供による共存アプリケーションを無効にして停止し、サーバをリブートする（必須）



ヒント

リブートにより、コール処理が中断される場合があります。

インストール前に無効にする必要があるシスコ認定アプリケーションのリストを参照するには、<http://www.cisco.com/pcgi-bin/ecoa/Search> をクリックします。Solution ペインで、**IP Telephony** をクリックします。Solution Category ドロップダウン リスト ボックスから **Operations, Administration, and Maintenance (OAM)** を選択します。Search をクリックします。

アンチウイルス サービス、侵入検知サービス（たとえば、Cisco Security Agent）、OEM サーバ エージェント、サーバ管理エージェント、VOIP モニタリング / パフォーマンス モニタリング、または リモート アクセス / リモート管理エージェントなどのプラットフォーム エージェントは、Cisco CallManager のインストールを妨げる可能性があります。パフォーマンス モニタリング サービス（NetIQ など）、アンチウイルス サービス（シスコ認定の McAfee サービス）、侵入検知サービス、リモート管理サービスなど、プラットフォーム エージェントおよびサービスを無効にすると、これらのサービスに関連する問題が発生することを防止できます。

本書では、シスコ認定の McAfee アンチウイルス サービスを無効にする手順だけを説明しています。その他のサービスまたはアプリケーションを無効にする手順についてヘルプが必要な場合は、製品に付属のマニュアルを参照してください。

McAfee アンチウイルス サービスを無効にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Start > Settings > Control Panel > Administrative Tools > Services を選択します。

ステップ 2 Services ウィンドウから、アンチウイルス サービス（Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager、または McAfee Framework Service）のいずれかを右クリックし、**Properties** を選択します。



(注) アンチウイルス サービスの名前は、アンチウイルス ソフトウェアのバージョンに依存します。

ステップ 3 Properties ウィンドウに General タブが表示されていることを確認します。

ステップ 4 Service Status 領域で、**Stop** をクリックします。

ステップ 5 Startup type ドロップダウン リスト ボックスから、**Disabled** を選択します。

ステップ 6 **OK** をクリックします。

ステップ 7 シスコ認定のすべての McAfee アンチウイルス サービス（Network Associates Alert Manager、Network Associates McShield、Network Associates Task Manager）に対して、**ステップ 1 ~ ステップ 6** を実行します。

ステップ 8 サーバをリブートして、サービスが実行されていないことを確認します。



注意

リブート後にサービスが起動しないことを確認してください。



注意

現在、シスコ認定のアンチウイルス ソフトウェアまたは侵入検知ソフトウェアをサーバにインストールしていない場合は、クラスタ内の全サーバのアップグレードまたはインストールを完了するまで、これらのソフトウェアをインストールしないことを強く推奨します。

ServPrep ユーティリティを実行する（オプション）

必須アイテム：Cisco CallManager Subscriber Upgrade Disk 1

Cisco CallManager をインストールする前に、ServPrep ユーティリティを実行し、シスコが提供するオペレーティングシステム ディスクを使用して Cisco IP Telephony オペレーティングシステムをインストールし、最新のオペレーティングシステムである 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードする必要があります。

サブスクリバサーバで実行する ServPrep ユーティリティは、ネットワーク情報が含まれるファイル STISys.inf を作成して、ネットワーク設定を更新します。このユーティリティは TCP/IP 設定を保存しますが、ハードコードされた速度やデュプレックスの設定など、手動で設定した NIC 設定は失われます。クラスタ内のすべてのサーバでインストールが完了した後、以前の NIC 設定を手動で設定する必要があります。



注意

このユーティリティは、すべての Cisco Media Convergence Servers、お客様が用意したシスコ認定の構成規格に準拠した HP DL320 および DL380 サーバ、IBM xSeries 330、340、342、および 345 サーバをサポートします。その他のサーバ（お客様が用意したサーバを含む）では、このユーティリティを実行しないでください。

手順

- ステップ 1** なるべく早く、Cisco CallManager Subscriber Upgrade Disk 1 をドライブに挿入します。
- ステップ 2** Upgrade Warning ウィンドウが表示されたら、情報を注意して読み、ウィンドウの下部の **ServPrep Utility** リンクをクリックします。
- ステップ 3** 現在の場所からプログラムを実行し、表示されるプロンプトに従います。

オペレーティングシステムをシスコが提供するバージョン 2000.4.2sr2（またはそれ以降）にアップグレードする（必須）

アップグレードを実行する前に、オペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティングシステムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

パブリッシャ データベース サーバで最初にアップグレードを実行し、パブリッシャ データベース サーバでの Cisco CallManager のアップグレードを完了してから、サブスクリバサーバでオペレーティングシステムをアップグレードします。

Cisco CallManager Release 4.2(1) にアップグレードする前に、最新のサービス リリース 2000.4.2sr2（またはそれ以降）付き Cisco IP Telephony オペレーティングシステム バージョン 2000.4.2 をインストールすることを推奨します。Cisco IP Telephony オペレーティングシステム バージョン 2000.4.2 Service Release 1 用のアップグレード プログラムは、win-OS-Upgrade-K9.2000-4-2sr2.exe です。

Cisco IP Telephony Server Operating System Service Release をダウンロードしてインストールする（必須）

最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース（2000.4.2sr2 またはそれ以降）をダウンロードして、インストールします。オペレーティングシステム サービス リリースは、音声製品のオペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする（推奨）

オペレーティングシステムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティングシステム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ディスクの挿入または Web ファイルのダウンロード



(注)

Cisco CallManager 3.3 からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクを使用する必要があります。

Cisco CallManager 4.0(x) からアップグレードする場合は、Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェア キットに付属するディスクまたは Web ダウンロード ファイルを使用してアップグレードできます。

**(注)**

Cisco CallManager に必須であり、かつこれによってインストールされる重要なサードパーティ製コンポーネントには、インストール中に複数回のリブートを必要とするものがあります。また、手動によるインストールプログラムの再実行および設定データの再入力が必要とするものもあります。

必須アイテム：Cisco CallManager 4.2(1) Installation and Recovery Disk または Cisco CallManager 4.2(1) Web ダウンロード ファイル

次の手順を実行してください。

手順

ステップ 1 オペレーティングシステムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のパスワードを使用してサーバにログインします。

ステップ 2 ディスクと Web のどちらを使用してアップグレードするかを選択します。

- ディスクを使用する場合：ステップ 3 ~ ステップ 4
- Web ファイルを使用する場合：ステップ 5 ~ ステップ 10

ディスクを使用する場合

ステップ 3 Cisco CallManager 4.2 Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を用意し、ドライブに挿入します。

インストール プロセスが自動的に開始します。



ヒント 手順で指示されるまで、ディスクを取り出さないでください。

ステップ 4 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）」に進み、アップグレードを続行します。

Web ファイルを使用する場合

ステップ 5 <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。

ステップ 6 Cisco CallManager Version 4.2 をクリックします。

ステップ 7 Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード ファイルをハード ドライブにダウンロードします。

ダウンロードしたファイルを保存した場所を記録します。

ステップ 8 ダウンロードしたファイルをダブルクリックしてインストールを開始します。

ステップ 9 このファイルを Web アップグレードのためだけに実行することを確認するメッセージが表示されます。Yes をクリックします。

Preparing To Install ウィンドウが表示されます。インストールの準備に数分かかります。

ステップ 10 「関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）」に進み、インストールを続行します。

関連する Cisco CallManager サービスをアップグレードしてサーバを検出する（必須）

次の手順を実行して、アップグレードを続行します。



(注)

オペレーティングシステムのアップグレード後、サーバにログインしていなかった場合は、Administrator のアカウントを使用してサーバにログインします。

手順

ステップ 1 Cisco CallManager のアップグレード前およびアップグレード後のバージョンを確認するには、**Yes** をクリックします。

ステップ 2 アンチウイルスおよび侵入検知ソフトウェアを無効にしたことを確認するには、**Yes** をクリックします。



ヒント

ここでサービスパックをインストールした場合は、サービスパックをインストールしてサーバをリブートした後に、Cisco CallManager Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 をもう一度挿入します。Cisco IP テレフォニー アプリケーションがインストール準備を行う間、待機します。

ステップ 3 重要なサードパーティ製コンポーネントを Cisco CallManager がインストールするために、サーバのリブートおよび設定データの入力が必要になる場合があることを確認し、**OK** をクリックします。

ステップ 4 **I accept the terms in the license agreement** オプション ボタンをクリックして Cisco CallManager 使用許諾に同意し、その後 **Next** をクリックします。

ステップ 5 Welcome ウィンドウで **Next** をクリックします。

ステップ 6 Administrator Password / Private Password ウィンドウで、次の操作を行います。

- 管理者パスワードを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- クラスタのプライベート パスワード フレーズを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- Next** をクリックします。

ステップ 7 Database パスワード ウィンドウで、次の操作を行います。

- SQL システム管理者(SA)パスワードを入力し、さらに確認のためパスワードを再入力します。
- Next** をクリックします。

ステップ 8 インストールを開始するには、**Install** をクリックします。

ステップ 9 サーバをリブートしてインストールを続行するには、**OK** をクリックします。

ステップ 10 サーバがリブート後、Windows Administrator アカウントでログインします。

インストールが開始されます。ステータス ウィンドウが開いて、インストールの進行状況が表示されます。Cancel はクリックしないでください。



(注) ステータス バーに表示されるインストールの進行状況は、各ソフトウェア パッケージがインストールされているとき、およびインストール プログラムがユーザのマシンを構成しているときにリセットされる場合があります。インストール プログラムによっては、ステータス バーは複数回リセットされることがあります。インストール プログラムが要求しない限り、サーバをリブートしないでください。

ステップ 11 Cisco CallManager 4.2(1) インストール ディスクを使用している場合、次のアップグレード ディスクを挿入する必要があることを示すメッセージが表示されます。次のステップに従ってください。

- a. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 2 を挿入して、**OK** をクリックします。

最初のアップグレード ディスクをもう一度インストールする必要があるというメッセージが表示されます。

- b. Cisco CallManager 4.2(1) Installation, Upgrade, and Recovery Disk 1 を挿入して、**OK** をクリックします。

ステップ 12 **Finish** をクリックします。

ステップ 13 **Yes.** をクリックして、サーバをリブートします。




ヒント

クラスタ内のすべてのサブスクリバサーバのアップグレードが完了するまで、サーバごとに P.2-20 の「Cisco CallManager サブスクリバサーバのアップグレード」の手順を繰り返します。すべてのサーバの更新が完了したら、P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」の適切な手順を実行します。






アップグレード後の作業の実行

アップグレードが完了したら、次の表から該当する作業を選択して実行してください。

アップグレード後の作業	関連情報および関連手順
ステップ 1 Cisco CallManager のインストールでは、Cisco CallManager サービスに対して、障害検出時にサービスを自動的に再開するためのデフォルトの回復設定が設定される。そのため、サービスに対して以前に変更したデフォルトの障害応答を確認する。	P.3-5 の「 デフォルトの回復設定 」を参照してください。
ステップ 2 サブスクリバ サーバがデータベースのコピーを取り出したことを確認する。	P.3-6 の「 サブスクリバ接続の確認および再初期化 」を参照してください。
ステップ 3 適切なサービスがすべて開始されたことを確認する。 内部コールが機能することを確認する。 ゲートウェイを通じてコールの発信と着信が可能であることを確認する。	P.3-7 の「 サービス、パッチ、およびホットフィックスの確認 」を参照してください。 P.3-8 の「 ルート リストの再割り当て 」を参照してください。
	<div style="text-align: center;">  </div> <p>注意 CDR ソフトウェアなどの、Cisco CallManager と統合されたサードパーティ製のソフトウェアが、アップグレード後に予期したとおりに実行されない場合は、クラスタ内のすべてのサーバに同じ SA パスワードを入力したことを確認してください。</p>
ステップ 4 CRS と Cisco CallManager が同じサーバにインストールされている場合は、適切な資料を参照してアップグレードを完了する。	P.1-6 の「 Cisco CallManager と共に CRS がインストールされている場合、共存アップグレードはどのように行われますか 」を参照してください。

アップグレード後の作業	関連情報および関連手順
<p>ステップ 5 クラスタ内のすべてのサーバで Cisco CallManager のアップグレードを完了した後、前にサーバにインストールされていたシスコ認定のアプリケーションとすべてのプラグイン (Cisco CDR Analysis and Reporting プラグインは除く) を再インストールする。</p> <p>たとえば、エンタープライズ ディレクトリを Cisco CallManager と統合する場合は、アップグレード後にクラスタ内のすべてのサーバに Cisco Customer Directory Configuration Plugin をインストールする必要があります。この作業は、パブリッシャ データベース サーバから始まります。プラグインを再インストールすると、Cisco CallManager で必要なスキーマ拡張およびデータ エントリがエンタープライズ ディレクトリに追加されます。</p>	<p>アプリケーションに付属の資料を適宜参照してください。</p>
<p>ステップ 6 Cisco TAPI、Cisco JTAPI、Cisco TSP (ボイスメール システム用) および Cisco SoftPhone 用の Cisco TSP をアップグレードする。</p>	<p>詳細については、次の項を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • TAPI、JTAPI、および Cisco Telephony Service Provider (TSP) のアップグレード (P.3-11) • Cisco SoftPhone の Cisco TAPI/TSP のアップグレード (P.3-12)
<p>ステップ 7 CRS または Cisco CallManager Extended Services がインストールされている場合は、JTAPI アップデート ユーティリティを実行して、JTAPI プラグインが正しくインストールされていることを確認する。</p>	<p>P.3-13 の「CRS での JTAPI Update Utility の使用」を参照してください。</p>
<p>ステップ 8 ボイスメール システムとして Cisco Unity を利用している場合は、適切にフェールオーバーが行われるように設定する。</p>	<p>詳細については、『Release Notes for Cisco CallManager』を参照してください。本書の最新版を入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voicemail/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。</p>
<p>ステップ 9 Cisco CallManager に統合されているすべての Cisco IP テレフォニー アプリケーションが正しく実行されていることを確認する。必要に応じて、Cisco CallManager システムに統合されている Cisco IP テレフォニー アプリケーションをアップグレードします。</p>	<p>次の URL をクリックして、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。</p> <p>http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voicemail/c_callmg/ccmcomp.htm</p> <p>アプリケーションに、このバージョンの Cisco CallManager との互換性がある場合は、適切な Cisco IP テレフォニー アプリケーションのマニュアルを参照してください。</p>
<p>ステップ 10 移行されたバージョンの Cisco CallManager Attendant Console を動作させるために、Global Directory で設定した ac ユーザについて Call Park Retrieval Allowed チェックボックスをオンにする。このチェックボックスをオンにしないと、Attendant Console は初期化されません。</p>	<p>この作業の実行方法の詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーション ガイド』を参照してください。</p>

アップグレード後の作業	関連情報および関連手順
<p>ステップ 11 Cisco CallManager をアップグレードすると、データベース名が自動的に増分される。たとえば、CCM0300 から CCM0301 になります。サードパーティ製の CDR ソフトウェアには、SQL トリガーが元のデータベース名にハードコーディングされている場合があります。この場合、トリガーは以前のデータベース名を指すので、すべての CDR フラット ファイルがパブリッシュ データベース サーバ上の誤ったディレクトリに書き込まれます。</p>	<p>この問題についてのテクニカル サポートが必要な場合は、サードパーティ製ソフトウェアのベンダーに直接連絡してください。</p>
<p>ステップ 12 Norton AntiVirus を利用する場合は、アプリケーションをインストールしてから、インストール後の作業を実行する。</p>	<p>『Using Symantec/Norton AntiVirus with Cisco CallManager』を参照してください。</p> <p>詳細については、次の URL にアクセスしてください。</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_bulletin0900aecd800f6180.html</p> <p>http://www.cisco.com/en/US/partner/products/sw/voicesw/ps556/prod_bulletin0900aecd800f8572.html</p>
<p>ステップ 13 ロケール English_United_States が、自動的にサーバにインストールされる。既存のロケールをアップグレードする場合や、サーバにその他のロケールを追加する場合は、Cisco IP Telephony Locale Installer をインストールします。</p>	<p>Cisco CallManager 4.2 用 Cisco IP Telephony Network Locale Installer のロケール固有のバージョンは、次の URL で提供されている場合に入手できます。</p> <p>http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/telephony/callmgr/locale-installer.shtml</p> <p>サポートされる言語とローカライズされる機能の全一覧については、Cisco IP Telephony Locale Installer ソフトウェアの隣に配置されている readme ファイルを参照してください。ロケールインストーラのインストールの詳細については、『Cisco IP Telephony Locale Installer の使用方法』を参照してください。</p> <p> (注) ロケールインストーラは、Cisco CallManager の各リリースについてバージョン別にサポートしています。</p>
<p>ステップ 14 Cisco CallManager サーバが接続されている LAN スイッチポートの設定と一致するように、サーバの Network Interface Card (NIC) Speed and Duplex 設定を構成する。サーバとスイッチの設定が一致しないと、ネットワークのパフォーマンスが低下し、予想外のエラーが発生する可能性があります。Cisco CallManager NIC が接続されている LAN スイッチポートの現在の設定を確認するには、ネットワーク管理者に問い合わせるか、Cisco IOS 設定マニュアルを参照してください。</p>	<p>100/Full に設定すると動作が良好であることが確認されています。</p>

アップグレード後の作業	関連情報および関連手順
<p>ステップ 15 サーバにインストールされているホットフィックスとサービスパックのバージョンを確認する。</p> <p>Web で入手できる最新のホットフィックスやサービスパック、および Cisco CallManager サービス リリースをダウンロードします。</p> <p>この作業では、ファイルのインストール後にサーバをリブートする必要があります。</p> <p> ヒント システムを維持するために、継続的にこの作業を行ってください。</p>	<p>サービス、パッチ、およびホットフィックスの確認 (P.3-7)</p> <p>ルート リストの再割り当て (P.3-8)</p> <p> ヒント サービス リリースは、Cisco CallManager のアップグレードが使用可能になった後に Web に配置されます。</p>
<p>ステップ 16 Cisco CallManager Release 3.3(x)、4.0 (x)、または 4.1 (x) からアップグレードしていて、複数のプライマリ Cisco CallManager サーバがある場合は、最適なロードバランスを維持するために、設定済みの Cisco CallManager グループにルート リストを再度割り当てる。</p>	<p>P.8 の「ルート リストの再割り当て」を参照してください。</p>
<p>ステップ 17 Microsoft Java Machine がインストールされていない PC から Cisco CallManager サーバを管理している場合、Sun Microsystems Java Virtual Machine (JVM) を PC にインストールして設定し、Cisco CallManager Administration が正しく表示されるようにする。</p> <p>MSJVM は、現在使用されている Windows オペレーティングシステムのクライアントワークステーションの全バージョンに、デフォルトでインストールされています。ただし、次のバージョンは例外です。</p> <ul style="list-style-type: none"> スリップストリームでインストールされた Windows XP Professional SP1 スリップストリームでインストールされた Windows 2000 Server/Professional SP4 	<p>P.3-9 の「Java Virtual Machine のインストール要件」を参照してください。</p>
<p>ステップ 18 現在のすべての Cisco パートナーおよび加盟企業が製造する製品とアプリケーションについて、基本的な接続性と機能に関するテストを現在の(アップグレード後の)環境で実行する。問題が検出された場合は、アップグレード後のテスト結果をアップグレード前のテスト結果と比較します。</p>	<p>P.2-2 の「始める前に」を参照してください。</p>

デフォルトの回復設定

Cisco CallManager のインストールでは、次のサービスに対して、障害検出時にサービスを自動的に再開するためのデフォルトの回復設定が設定されます。

- Cisco Serviceability Reporter
- Cisco CallManager
- Cisco CTIManager
- Cisco TFTP
- Cisco Telephone Call Dispatcher
- Cisco Tomcat
- Cisco RIS Data Collector
- Cisco Messaging Interface

実稼働中のシステムの回復設定を変更することは推奨しません。デフォルトの障害応答を変更する必要がある場合は、**Start > Settings > Control Panel > Service** を選択して、回復設定を設定できます。

サードパーティ製アプリケーション、アンチウイルス サービス、セキュリティ エージェントの有効化

サーバにログインしたら、次の手順に従って、Control Panel からすべてのサードパーティ製アプリケーション、アンチウイルス サービス、セキュリティ エージェントを有効にします。

手順

-
- ステップ 1** **Start > Programs > Administrative Tools > Services** を選択します。
 - ステップ 2** 開始するサードパーティ製アプリケーション、アンチウイルス サービス、またはセキュリティ エージェントを特定し、そのサービスを右クリックして **Properties** を選択します。
 - ステップ 3** **Properties** ウィンドウの **General** タブをクリックします。
 - ステップ 4** **Startup type** ドロップダウン リスト ボックスから、**Automatic** を選択します。
 - ステップ 5** **OK** をクリックします。
 - ステップ 6** **Services** ウィンドウで、アプリケーションまたはサービスを右クリックし、**Start** をクリックします。
-

サブスクライバ接続の確認および再初期化

クラスタ内のパブリッシャ データベース サーバとサブスクライバとの間の接続が何らかの理由で切断されると、データベースをサブスクライバにコピーできません。

サブスクリプションの状態の確認

クラスタ内のパブリッシャ データベース サーバとサブスクライバとの間の接続が切断されているかどうかを確認するには、クラスタ内の最後のサブスクライバをインストールしてから 35 分間待ちます。それから、SQL Server Enterprise Manager を開きます。サブスクリプションの隣に赤色の X アイコンが表示されている場合、そのサブスクリプションは切断されています。

サブスクリプションの再初期化とレプリケーション スナップショット エージェントの起動

サブスクリプションの隣の赤色の X アイコンを確認することにより、1 つまたは複数のサブスクリプション接続が切断されていると判断した場合は、それらのサブスクリプションを再初期化してパブリッシャ データベース サーバのレプリケーション スナップショット エージェントを起動します。

手順

-
- ステップ 1** Start > Programs > Microsoft SQL Server > Enterprise Manager を選択して、SQL Server Enterprise Manager を開きます。
 - ステップ 2** Microsoft SQL Servers/SQL Server Group/< このサーバのホスト名 >/Databases/< パブリッシャ データベース名 >Publications で、設定するパブリッシャ データベースの名前を選択します。
 - ステップ 3** メイン ウィンドウで、サブスクリプション名を右クリックして、**Reinitialize all Subscriptions** を選択します。Yes をクリックして確認します。
 - ステップ 4** Microsoft SQL Servers/SQL Server Group/< このサーバのホスト名 >/Replication Monitor/Agents で、**Snapshot Agents** フォルダを選択します。
 - ステップ 5** 設定するデータベース名と一致するパブリケーション名を右クリックして、**Start** をクリックします。
-

まれに、サブスクリプションの再初期化が動作しない場合があります。これまでの手順が予期したとおり動作しなかった場合は、この製品のテクニカル サポート、たとえば、Cisco パートナーまたは Cisco Technical Assistance Center (TAC) に連絡してください。

サービス、パッチ、およびホットフィックスの確認

次の作業を実行してください。

- 適切なサービスがクラスタ内の各サーバで実行されていることを確認します (P.3-7 の「サービスについて」)。
- Microsoft の最新のパッチおよびホットフィックスがインストールされていることを確認します (P.3-7 の「Microsoft パッチおよびホットフィックスについて」)。
- 最新の Cisco CallManager サービス リリースがインストールされていることを確認します (P.3-7 の「Cisco CallManager サービス リリースについて」)。

サービスについて

Cisco CallManager Serviceability を開いて、移行されたすべてのサービスが実行していることを確認します。サービスをアクティブにする手順およびサービスの推奨事項については、『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』および『Cisco CallManager Serviceability システムガイド』を参照してください。



注意

Microsoft Computer Management ウィンドウを介してサービスを開始および停止しないでください。このウィンドウを介してサービスを開始および停止すると、Cisco CallManager データベースに問題が発生します。

Microsoft パッチおよびホットフィックスについて

ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

Cisco CallManager サービス リリースについて

このバージョンの Cisco CallManager をクラスタ内のすべてのサーバにインストールした後、クラスタ内のすべてのサーバに最新の Cisco CallManager サービス リリースをインストールすることを強く推奨します。これらのサービス リリースには使用するシステムのバグ修正が含まれています。

Cisco CallManager サービス リリースは累積型です。シスコはこれらのバグ修正を次の Cisco CallManager リリースに組み込みます。



ヒント

クラスタ内のすべてのサーバに同じバージョンのサービス リリースをインストールしてください。

最新の Cisco CallManager サービス リリース を入手するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 <http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> をクリックします。

ステップ 2 Cisco CallManager Version 4.2 をクリックします。

Cisco CallManager 4.2 ソフトウェア ページが表示されます。

■ ルートリストの再割り当て

ステップ3 サービスリリース用の readme ファイルを探してダウンロードします。

readme ファイルには、アップグレードの手順、既知の問題、およびインストール ファイルの説明があります。

ステップ4 readme ファイルを参照して、Cisco CallManager がインストールされているクラスタ内のすべてのサーバに Cisco CallManager サービス リリースをインストールします。

ルートリストの再割り当て

1 つのクラスタ内にプライマリ Cisco CallManager サーバが複数あり、Cisco CallManager Release 3.3(x)、4.0(x)、または 4.1(x) から Cisco CallManager 4.2(1) にアップグレードしている場合、最適なロードバランスを維持するには、Cisco CallManager Administration で設定した Cisco CallManager グループにルート リストを再度割り当てる必要があります。コール処理の冗長性を確保するために、アップグレード プログラムによって、1 台のプライマリ サーバと 1 台のバックアップ サーバから成る Cisco CallManager グループがクラスタ内のすべてのプライマリ Cisco CallManager サーバに対して作成され、ラウンドロビン アルゴリズムを使用して各 Cisco CallManager グループにルート リストが割り当てられています。作成された Cisco CallManager グループの名前形式は、RLCMG_<プライマリ Cisco Callmanager 名> です。

手順

ステップ1 『Cisco CallManager システム ガイド』および 『Cisco CallManager Network Solutions Design Guide』の説明に従って、Cisco CallManger グループとルート リストの設定をロード バランシングと冗長性に関して評価します。

ステップ2 Cisco CallManager Administration で設定した Cisco CallManger グループにルート リストを割り当てます。

ステップ3 移行済みの CCM グループ RLCMG_<プライマリ CM サーバ名> を削除します。

Java Virtual Machine のインストール要件

Microsoft Java Virtual Machine (MSJVM) は、Microsoft Windows ベースのコンピュータ上で Java アプリケーションの実行を可能にするテクノロジーです。Microsoft Internet Explorer (Windows オペレーティングシステムのコンポーネント) の一部のバージョンには MSJVM が含まれていました。しかし Microsoft は、自社のソフトウェアでの MSJVM の配布を打ち切り、サポートの終了を発表しました。

MSJVM は、現在使用されている Windows オペレーティングシステムのクライアントワークステーションの全バージョンに、デフォルトでインストールされています。ただし、次のバージョンは例外です。

- スリップストリームでインストールされた Windows XP Professional SP1
- スリップストリームでインストールされた Windows 2000 Server/Professional SP4



(注)

Cisco CallManager Administration ウィンドウはリモートスクリプトに依存し、このリモートスクリプトは Web インタラクションに関して JVM に依存しています。したがって、Cisco CallManager Administration が正しく表示されるようにするために、Cisco CallManager では JVM をクライアントマシン上で使用する必要があります。

クライアントマシンで MSJVM を実行している場合、既存の設定を引き続き使用して、Cisco CallManager Administration ウィンドウにアクセスし、管理タスクを実行することができます。

クライアントマシンに MSJVM がインストールされていない状態(つまり、Cisco CallManager がクライアントマシン上で JVM を検出できない、というエラーメッセージが表示される状態)で、Cisco CallManager Administration タスクを実行する必要がある場合は、Sun Microsystems の Java Virtual Machine (JVM) をクライアントマシン上にインストールして、設定する必要があります (Sun JVM は、Java 2 Runtime Environment (JRE) の一部です)。さらに、ブラウザのセキュリティを Java 対応に設定する必要があります。JRE をクライアントマシンにインストールする方法の詳細については、P.3-10 の「JRE のインストール」を参照してください。

MSJVM がクライアントマシンにインストールされているかどうか不明な場合は、念のために Sun J2RE をインストールしてください。その結果、マシン上に 2 つの Java Runtime Environment がインストールされ、実行されることがあります。



ヒント

2 つの異なる JVM 製品 (MSJVM と Sun J2RE) をクライアントマシン上で実行している場合は、必ず当該ソフトウェアのベンダー (Microsoft および Sun) から、各 JVM 用のパッチおよびセキュリティアップデートをダウンロードし、インストールしてください。

JRE のインストール

Cisco CallManager のインストールの一部として、システムにより、Cisco CallManager サーバにインストールされる Sun JRE クライアントソフトウェアが zip ファイルで提供されます。



(注)

Windows XP Home/XP Professional には、zip ファイルを処理するための組み込みツールが備えられています。Windows 2000 をオペレーティングシステムとして使用している場合に zip ファイルを格納および zip ファイルにアクセスするには、WinZip などの圧縮解凍ツールを別途用意してください。

クライアント PC に JRE ソフトウェアをインストールするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager サーバで `C:\utils\JRE` ディレクトリに移動し、`J2RE_Client_<jre version>.zip` ファイルを検索します。

次の例は、zip ファイル名を示しています。

`J2RE_Client_1.4.2_05.zip`



(注)

Cisco CallManager サーバ上の JRE ソフトウェアにアクセスできるのは、Cisco CallManager Administrator だけです。他のユーザのアクセスを有効にするには、`J2RE_Client_<jre version>.zip` ファイルをすべてのユーザが共有できるサーバにコピーします。

- ステップ 2** `J2RE_Client_<jre version>.zip` ファイルを右クリックし、**Copy** をクリックして、このファイルをクライアント PC にコピーします。
- ステップ 3** `J2RE_Client_<jre version>.zip` ファイルをダブルクリックして、Sun J2RE インストール実行プログラムを解凍します。
- ステップ 4** インストール実行プログラム ファイルをクライアント PC 上でダブルクリックします。

次の例は、インストール実行プログラム ファイルの名前を示しています。

`j2re-1_4_2_04-windows-i586-p.exe`



(注)

インストール実行プログラム ファイルの正確な名前はバージョンごとに変わります。新しいバージョン番号が名前に取り入れられるためです。

JRE ソフトウェアは、`C:\Program Files\Cisco\Java\JRE` ディレクトリにインストールされます。

サーバにインストールされているコンポーネントのバージョンの表示

mcsver.exe プログラムを使用すると、オペレーティングシステムを含むすべてのインストール済みコンポーネントの現在のバージョンを確認できます。ただし、このプログラムでは、Cisco CallManager の正確なバージョンは確認できないので注意してください。最初のインストール時に、インストール ディスクを使用して実行したコンポーネントの多くは、この時点ではもうシステムに存在しません。

OS Image のバージョンは、オペレーティングシステム ディスクのバージョン番号と同じです。OS Image のバージョンは、Cisco IP Telephony Server Operating System Hardware Detection ディスクを使用して新規にインストールする場合にだけ変更されます。

stiOSUpd.exe のバージョンは、ディスクまたは Web のいずれかを使用して前回実行したオペレーティングシステム アップグレードのバージョンと同じです。stiOSUpd のバージョンは、シスコが Cisco IP Telephony Server Operating System OS Upgrade ディスク (Disk 2) をアップグレードおよびリリースした際に変更されます。

サーバにインストールされているコンポーネントのバージョンを表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Windows エクスプローラを使用して、次のフォルダに移動します。

C:\utils\mcsver

ステップ 2 サーバで実行されているコンポーネントのバージョンが表示されます。

TAPI、JTAPI、および Cisco Telephony Service Provider (TSP) のアップグレード

Telephony Application Programming Interface (TAPI) アプリケーションおよび Java Telephony Application Programming Interface (JTAPI) アプリケーションがインストールされているすべてのアプリケーション サーバまたはクライアントワークステーションで、TAPI/JTAPI クライアントソフトウェアをアップグレードする必要があります。TAPI/JTAPI クライアントをアップグレードしない場合はアプリケーションの初期化に失敗します。

次に示す情報は、Cisco CallManager に Cisco Unity システムが統合されている場合に適用されます。TSP では、Cisco Unity に対して、ボイスメールポートが使用可能になります。Cisco Unity を Cisco CallManager に正しく統合するには、ボイスメールシステムに関連付けられている TSP のアップグレードが必要な場合があります。適切な TSP リリースにアップグレードするには、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。

Cisco SoftPhone の Cisco TAPI/TSP のアップグレード

Cisco SoftPhone の TAPI/TSP を、『*Cisco CallManager Compatibility Matrix*』で説明しているバージョンにアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 各 Cisco Softphone クライアントから、Cisco CallManager Administration を実行するサーバにアクセスし、管理者としてログインします。



ヒント このサーバにアクセスするには、Web ブラウザのアドレスバーに、<https://<CM-server-name>/CCMAdmin/main.asp> と入力します。<CM-server-name> は、サーバ名です。

- ステップ 2** Application メニューから、**Install Plugins** を選択します。
- ステップ 3** プラグインに関連付けられている **Cisco Telephony Service Provider** アイコンをクリックします。
- ステップ 4** ウィンドウのプロンプトに従って、アップグレードを完了します。
- ステップ 5** Cisco SoftPhone で基本的な通話が正しく機能するかどうかを確認します。
-

CRS での JTAPI Update Utility の使用

Cisco Customer Response Solutions(CRS)サーバには、CRS サーバおよび Cisco Agent Desktop(CAD)との Cisco CallManager Plugin の同期化を実行する JTAPI Update Utility が含まれています。CRS サーバが正しく機能できるようにするには、このアップデート ツールを実行する必要があります。

CRS または Cisco CallManager Extended Services がインストールされていて(Cisco CallManager サーバに共存しているか、別のサーバに存在しているかにかかわらず)、Cisco CallManager のアップグレードまたはインストール、あるいはその両方を実行する場合は、プラグインの同期化を確実にするために、追加アクションを実行する必要があります。

Cisco CallManager サーバへのアップグレードには、アップデートされた JTAPI Plugin コンポーネントが含まれている場合があるので、CRS サーバで JTAPI Update Utility を実行していることを確認して JTAPI クライアントをアップグレードします。Cisco CallManager をアップグレードしてから CRS サーバで JTAPI Update Utility を実行すると、JTAPI Plugin が正しくインストールされます。



(注)

JTAPI Update Utility を実行せずに、単にプラグイン インストーラを実行して CRS サーバに JTAPI Plugin をインストールすると、jtapi.jar ファイルが CRS 共有フォルダにコピーされず、アップデートは不完全な状態のままになります。

JTAPI Update Utility の詳細については、

http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/sw_ap_to/apps_3_5/english/admn_app/apadm35.pdf にアクセスして、『Cisco Customer Response Applications Administrator Guide』を参照してください。

Cisco CallManager Music On Hold ディスクまたはダウンロードの使用法



(注)

ここで説明する内容は、Web から Cisco CallManager Music On Hold ファイルをダウンロードしたことがないか、または Cisco CallManager Music On Hold ディスクを使用したことがない場合に適用されます。

Cisco CallManager がサーバに最初にインストールされるときに、Music On Hold(MOH; 保留音)オーディオ ファイルのサンプルがユーザ用に自動的にインストールされます。Music On Hold の種類を追加するには、Web サイトから次の 2 つのファイルのいずれかをダウンロードできます。

- ciscocm-MusicOnHold: ディスクから入手可能な種類がすべて含まれている wav ファイルのセット
- ciscocm-MusicOnHoldSampler : ディスクで入手可能なサンプルが含まれているいくつかのファイルのセット

Music On Hold の詳細については、『Cisco CallManager アドミニストレーションガイド』および『Cisco CallManager システム ガイド』の最新版を参照してください。

Cisco CallManager ユーザは、すべてのディスクまたはファイルで Music On Hold を使用できます。ライセンスの制限により、Cisco CallManager Music On Hold のディスクまたはファイルは他人に配布できず、また他の目的での使用はできません。



アップグレード試行後における前の設定の復元

なんらかの理由でアップグレードが失敗した場合、または Cisco CallManager の以前のバージョンを使用する場合は、次に示す手順を実行して、Cisco IP Telephony Applications Server の設定をアップグレード前の設定に戻します。

アップグレード前にドライブを取り外さなかった場合の再設定

この手順は、テープ デバイスまたはネットワーク ディレクトリに正常なバックアップ ファイルがあることを前提としています。 <http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスして、『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照してください。

次の手順を実行してください。

手順

- ステップ 1** パブリッシュ データベース サーバとサブスクリバ サーバのどちらを復元するかに応じて、次のいずれかの手順を実行します。

パブリッシュ データベース サーバ

- ステップ 2** シスコが提供するオペレーティング システム バージョン 2000.2.4 (またはそれ以降) を使用して、オペレーティング システムを再インストールします。

この作業は、Cisco CallManager サーバに付属しているシスコ提供のディスクを使用して実行する必要があります。

- ステップ 3** Cisco CallManager に元々付属しているディスクを使用して、Cisco CallManager をサーバに再インストールします。

インストール中に自動的に表示されるバックアップ ユーティリティは、インストールも設定もしないでください。

- ステップ 4** 必要に応じて、Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) をインストールして設定します。

- ステップ 5** 最新の正常なバックアップに適合するためのアップグレードを実行します。



(注) アップグレード前の設定に戻すには、前回正常にバックアップが行われたときの Cisco CallManager バージョンを復元する必要があります。

- ステップ 6** データを復元します。

サブスクリバ サーバ

- ステップ 7** シスコが提供するオペレーティング システム バージョン 2000.2.4 (またはそれ以降) を使用して、オペレーティング システムを再インストールします。

この作業は、Cisco CallManager サーバに付属しているシスコ提供のディスクを使用して実行する必要があります。

- ステップ 8** Cisco CallManager に元々付属しているディスクを使用して、Cisco CallManager の適切なバージョンをサーバに再インストールします。

インストール中に自動的に表示されるバックアップ ユーティリティは、インストールも設定もしないでください。

ステップ9 必要に応じて、Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) をインストールして設定します。

CRS などの Cisco IP テレフォニー アプリケーションがサブスライバ サーバにある場合は、サブスライバでバックアップユーティリティをインストールおよび設定します。

アップグレード前にドライブを取り外した場合の再設定

このプロセスには 15 ~ 60 分かかります。所要時間はドライブのサイズによって異なります。

次の手順を実行してください。

手順

ステップ1 サーバをシャットダウンします。

ステップ2 既存のハードドライブをスロット 0 から取り外します。アップグレード前に取り外したハードドライブをスロット 0 に取り付けます。



(注) MCS-7845 では、さらに追加のステップが必要です。既存のハードドライブをスロット 2 から取り外し、アップグレード前に取り外したハードドライブをスロット 2 に取り付けます。

ステップ3 スロット 1 のドライブを少し引き出します。MCS-7845 の場合は、スロット 3 のドライブも少し引き出します。ドライブをサーバから完全に取り外さないでください。

ステップ4 システムの電源をオンにします。



(注) ステップ 5 は、MCS-7835I-2.4 サーバおよび MCS-7835I-3.0 サーバには適用されません。

Cisco MCS

ステップ5 ドライブを取り外したすべての Cisco MCS に対して、次の手順を実行します。

a. F2 キーを押して、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 で一時回復モードを有効にします。



(注) MCS-7835H-2.4 (またはそれ以降) および MCS-7845H-2.4 (またはそれ以降) では、デフォルトは F2 に設定され、10 秒後に自動的に処理を続行します。

b. このステップは、MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 にだけ適用されます。プロンプトが表示されたら、F1 キーを押し、続行します。

c. **ステップ3** で少し引き出したドライブをスロット 1 に押し込みます。

d. MCS-7830、MCS-7835、または MCS-7845 の場合は、**Start > Compaq Systems Tools > Compaq Array Configuration Utility** を選択します。

■ アップグレード前にドライブを取り外した場合の再設定

- e. 画面の右下にあるステータスバーで、ドライブのミラーリングの終了を確認します。
- f. このステップは、MCS-7845 にだけ適用されます。スロット 1 でミラーリング プロセスが完了したら、[ステップ 3](#) で引き出したドライブをスロット 3 に押し込みます。
- g. プロセスが正常に完了したことを確認します。

MCS-7835I-2.4、MCS7835I-3.0、または IBM xSeries サーバ

ステップ 6 F5 キーを押します。

ステップ 7 Ctrl + I キーを押します。

ステップ 8 矢印キーを使用して、**Advanced functions** を選択します。

ステップ 9 矢印キーを使用して、**Copy the configuration from drives to the controller** を選択します。

ステップ 10 Y キーを押します。

処理が開始されます。

ステップ 11 いずれかのキーを押して続行します。

ステップ 12 矢印キーを使用して、**Exit** を押します。

ステップ 13 Ctrl + Alt + Del キーを押します。

ステップ 14 Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。

ステップ 15 [ステップ 3](#) で少し引き出したドライブをスロット 1 に押し込みます。



(注) ドライブ状態についてのエラー メッセージが表示されます。処理を続行します。ドライブを取り外さないでください。

この処理は約 35 ~ 40 分かかります。所要時間はサーバによって異なります。

ステップ 16 Start > Programs > ServeRaid Manager > ServeRaid Manager を選択します。ドライブのミラーリングの進行状況が表示されます。

ステップ 17 プロセスが正常に完了したことを確認します。

ドライブのミラーリング完了後のハードドライブ復元

ドメインの信頼関係に影響する変更を加えた場合、ドライブのミラーリング後にハードドライブを復元するには、サーバをドメインから削除し、そのサーバをもう一度ドメインに参加させる必要があります。この手順を実行するには、そのドメインに対してサーバに参加させる権限が必要です。

手順

-
- ステップ 1 Start > Settings > Control Panel > System を選択します。
 - ステップ 2 Network Identification タブをクリックします。
 - ステップ 3 Properties ボタンをクリックします。
 - ステップ 4 Workgroup オプション ボタンをクリックし、対応するフィールドに WRKGRP と入力します。
 - ステップ 5 OK をクリックします。
 - ステップ 6 プロンプトが表示されたら、サーバを再起動します。
 - ステップ 7 Administrator のパスワードを使用して、サーバにログインします。
 - ステップ 8 [ステップ 1](#) ~ [ステップ 3](#) を実行します。
 - ステップ 9 Domain オプション ボタンをクリックし、サーバのドメイン名を入力します。
 - ステップ 10 OK をクリックします。
 - ステップ 11 プロンプトが表示されたら、サーバを再起動します。
-

Cisco CallManager 復元後のアップグレード済み Cisco IP テレフォニー アプリケーションの復元

クラスタ全体を前のバージョンの Cisco CallManager に復元したら、統合された Cisco IP テレフォニー アプリケーションを復元する必要があります。これらの統合アプリケーションは、復元された Cisco CallManager と互換性のあるバージョンに復元します。アプリケーションを復元するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 『Cisco CallManager Compatibility Matrix』で、クラスタの復元に適合するテレフォニー製品および互換バージョンを確認します。
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm にアクセスしてください。

ステップ 2 可能であれば、アプリケーション サーバまたはクライアントワークステーションから、Cisco CallManager Administration を実行している復元済みサーバにアクセスし、管理者としてログインします。



ヒント このサーバにアクセスするには、Web ブラウザのアドレスバーに、`https://<CM-server-name>/CCMAdmin/main.asp` と入力します。<CM-server-name> は、サーバ名です。

ステップ 3 Application メニューから、**Install Plugins** を選択します。

ステップ 4 次のうち、適切なプラグインをクリックします。

- **Cisco Telephony Service Provider** (Cisco SoftPhone 用)
- **Cisco JTAPI** (JTAPI を使用して Cisco CallManager とインターフェイスするアプリケーション用)

ステップ 5 ウィンドウのプロンプトに従って、インストールを完了します。

ステップ 6 アプリケーションがインストールされているすべてのサーバ上でこの手順を実行します。



アップグレード メッセージ

アップグレード中に、次のメッセージがダイアログボックス(ログファイルではない)に表示される場合があります。C:\Program Files\Common Files\Cisco\Logs からログファイル ccminst <data/time stamp>.log を取得して参照します。

表 5-1 インストール時のメッセージ


メッセージ	原因	対応策
<p>During the installation process, you may be prompted possibly multiple times to reboot the server to install a critical component.</p> <p>Follow the instructions in the dialog box, and</p> <p>(1) Reboot the server.</p> <p>(2) Log in as the administrator.</p> <p>(3) Rerun the installation program.</p> <p> (注) インストールを再開するためにデータの再入力が必要になる場合があります。</p>	これは単なる情報メッセージです。	OK をクリックして、インストールを続行します。
You must provide the Computer Name of the publisher server. IP addresses or fully qualified DNS names are not allowed.	パブリッシャ データベース サーバ名を入力するときに、ピリオド(.)を使用することはできません。	情報を正しく入力し直します。
You must provide the publisher server name when installing a subscriber.	このエラー メッセージは、サブスクライバ サーバに Cisco CallManager をインストールするときにパブリッシャ データベース サーバ名を入力しなかった場合に表示されます。	情報を正しく入力し直します。
You have entered an invalid product key. Please re-enter the key.	無効なプロダクト キーを入力しました。	Cisco CRS のインストール マニュアルを参照して、Cisco CRS プロダクト キーを確認します。Cisco CallManager プロダクト キーについては、本書を参照してください。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
You must enter a password.	このメッセージは、アプリケーションのインストールに必要なパスワードを入力しなかった場合に表示されます。	正しいパスワードを入力します。
The passwords that you entered do not match.	このエラー メッセージは、パスワードを 2 回以上入力したときに、入力したパスワードがサーバ上のパスワードと一致していない場合に表示されます。	クラスタ内のサーバすべてに対して、同一のパスワードを入力します。
The password that you entered is not valid.	無効なパスワードを入力しました。	正しいパスワードを入力します。
You must enter a phrase from 1 to 15 characters in length. This phrase may contain English lower-case letters, English upper-case letters, Westernized Arabic Numerals, and the following Non-alphanumeric "special characters" { } . < > : ? / \ ` ~ ! @ \$ ^ & * () _ - +	プライベート パスワード フレーズに無効な文字を入力しました。	有効な文字を入力します。
The installation has detected pending file operations. You must reboot the server before continuing. The installation will now abort.	ペンディング ファイル操作が発生しています。	サーバをリブートしてから、Cisco CallManager をインストールします。
You are not logged on as 'Administrator'. You must log in by using local Administrator user name and password to install Cisco CallManager.	サーバにログインする際、ローカル Administrator のユーザ名とパスワードを使用しませんでした。	ローカル Administrator のユーザ名とパスワードでサーバにログインします。
You do not have administrator privileges. You must have administrator privileges to install Cisco CallManager.	管理権限がありません。	管理権限のあるアカウントでサーバにログインします。
Windows 2000 Server is not installed. Install Windows 2000 Server before you install Cisco CallManager.	オペレーティング システムの適切なバージョンをインストールしていません。	すべての専用サーバおよび共存サーバにオペレーティング システムのバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) がインストールされていることを確認します。Cisco CallManager をインストールする前に、2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードし、最新のサービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をインストールします。
Windows 2000 Service Pack 4 or later is not installed. You must have Windows 2000 Service Pack 4 or later installed before you install Cisco CallManager.	オペレーティング システムの適切なバージョンをインストールしていません。	すべての専用サーバおよび共存サーバにオペレーティング システムのバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) がインストールされていることを確認します。Cisco CallManager をインストールする前に、2000.4.2sr2 (またはそれ以降) にアップグレードし、最新のサービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をインストールします。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
You must install Cisco CallManager by double clicking CCMSetup.exe.	Cisco CallManager をインストールする際、Cisco CallManager パッケージに含まれる msi ファイルをダブルクリックしました。	CCMSetup.exe をダブルクリックします。
Cisco CallManager could not install the SUN Microsystems JRE component.Review the Cisco CallManager installation logs to determine cause of failure, take appropriate action.For more information refer, to the Cisco CallManager installation documents.	JRE のインストールに失敗しました。	ログファイルを取得して調べます。
Cisco CallManager installation has detected JRE version <JREVERSION> installed at <JRELOCATION>.Uninstall this version of JRE from the server and rerun the installation.To continue the installation, you must disable or stop any anti-virus protection, intrusion detection software, and other third-party applications, and then rerun the installation program.	インストール中に、互換性のない JRE のバージョン、または必要なすべてのコンポーネントがインストールされていない可能性があるバージョンが検出されました。	現在の JRE バージョンをアンインストールし、インストール プログラムを再開します。
Cisco CallManager successfully installed Sun JRE and requires the server to be rebooted.To continue the installation, you must disable or stop any anti-virus protection, intrusion detection software, and other third-party applications, and then rerun the installation program.	Cisco CallManager が、インストールを続行するためにサーバのリブートを要求しています。	サーバをリブートして、管理者特権でログインします。インストール プログラムは自動的に続行します。
You must apply SQL 2000 Service Pack 4 (or later) before proceeding with this installation.	Microsoft SQL 2000 Service Pack 4 がインストールされていません。	Microsoft SQL 2000 Service Pack 4 をインストールしてから、Cisco CallManager のアップグレードを実行します。
The installation program could not detect a valid version of Microsoft SQL 2000. Ensure that the server has a valid Cisco CallManager version before continuing with the upgrade procedure.The installation will now abort.	インストール プログラムは有効なバージョンの Microsoft SQL 2000 を検出できませんでした。	再度アップグレードを行う前に、Cisco CallManager のデータの適切なコピーを使用してサーバを再構成する必要があります。
If you have installed intrusion detection or antivirus protection software, you must stop and disable these applications from the Services Control console before you continue with the Cisco CallManager installation.All other installed third-party applications must be uninstalled before proceeding with the Cisco CallManager installation.Failure to follow these directives could result in un-recoverable errors.Would you like to proceed?	このメッセージは、管理者に対する要件の警告として常に表示されます。	シスコ認定のアプリケーション (Cisco Partner Applications) またはプラットフォーム エージェントがサーバにインストールされている場合は、それを無効にするかアンインストールして、そのサービスを停止する必要があります。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Because the <BUILDVERSION> of this Cisco CallManager MSI package is not compatible with the Cisco CallManager setup file (ccmsetup.exe), make sure that you are using the ccmsetup.exe that was distributed with this version of Cisco CallManager.The installation will now abort.	このメッセージは、MSI パッケージに Cisco CallManager セットアップファイルとの互換性がないことを示します。	このバージョンの Cisco CallManager に付属する ccmsetup.exe ファイルを使用します。
You are attempting to upgrade Cisco CallManager <InstalledBUILDVERSION> to version <UpgradeBUILDVERSION>.Direct upgrades from this version of Cisco CallManager are not supported.You must first upgrade to a compatible Cisco CallManager version before upgrading to this version.The installation will now abort.	Cisco CallManager 3.3 Cisco CallManager 4.0、または Cisco CallManager 4.1 以外のバージョンからアップグレードしようとしました。	Cisco CallManager 4.2 にアップグレードするには、事前に Cisco CallManager 3.3、Cisco CallManager 4.0、または Cisco CallManager 4.1 にアップグレードします。
You are attempting to upgrade Cisco CallManager <InstalledBUILDVERSION> to version <UpgradeBUILDVERSION>.Upgrades from this version of Cisco CallManager require using the Same-Server Recovery method.Please refer to the Upgrading Cisco CallManager Release 4.2(1) documentation for more information.The installation will now abort.	Same Server Recovery の手順に従わずに、Cisco CallManager 3.2 から Cisco CallManager 4.2(1) に直接アップグレードしようとしました。	オペレーティング システムのインストール用にこのバージョンの Cisco CallManager に付属しているオペレーティング システム ディスクを使用して、Same Server Recovery を実行する必要があります。
You are attempting to upgrade Cisco CallManager <InstalledBUILDVERSION> to version <UpgradeBUILDVERSION> by using the web download file.You cannot use the web download file to upgrade from this version of Cisco CallManager directly.You must obtain the upgrade CD-ROM disks from your Cisco account representative to complete this upgrade.The installation will now abort.	Package For Web(PFW)ダウンロードファイルを使用して Cisco CallManager 3.3(x) から 4.2(1) にアップグレードすることはできません。	Cisco CallManager 4.2(1) ソフトウェアキットに付属しているアップグレード CD-ROM ディスクを使用する必要があります。シスコの代理店にお問い合わせください。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
You are attempting a Same System Recovery from an unsupported version of Cisco CallManager.The installation will now abort.	オペレーティング システムのインストール時に、Same Server Recovery オプションを選択しましたが、次のどちらかの問題が発生しています。 <ul style="list-style-type: none"> • Cisco CallManager 3.2 がサーバにインストールされていない。 • Cisco CallManager 3.2 サーバのバックアップの実行時に、誤ったバージョンの Cisco IP Telephony Applications Backupユーティリティを使用した。 	サーバにインストール済みの Cisco CallManager のバージョンから Cisco CallManager 4.2(1) にアップグレードする方法については、本書を参照してください。
Configuration changes to the Cisco CallManager server do not take effect until you restart your system.Click Yes to restart the computer now or No if you plan to restart the computer later.	このメッセージは、インストール時に Cisco CallManager の設定を変更したときに表示されます。	修正処置は必要ありません。
Cisco CallManager installation detected a service control file from a previous failed installation.This may have resulted in incorrect service Startup Type settings.Click: "Yes" to continue installing with the current settings, "No" to reset service startup types to the original settings and exit the installation program, or "Cancel" to exit the installation program with no further action.	このメッセージは、以前インストールに失敗したことがインストールプログラムによって検出された場合に表示されます。	Yes を選択して、現在の設定値で Cisco CallManager のインストールを続行することを推奨します。
The installation has detected that the server exists in a domain.When a server exists in a domain, authentication between servers may fail or the non-default domain security policies may be too restrictive for the Cisco CallManager installation to build critical NT Accounts during an upgrade.Failure to remove the server from the domain and add to a workgroup may cause upgrade errors, upgrade failures, or a total system failure, which includes a loss of data and a complete reinstallation of Cisco CallManager.Would you like to proceed?	サーバがドメイン内に存在します。	インストールを続行する前に、クラスタ内のすべてのサーバをドメインから削除することを強く推奨します。
To proceed, the installation program must update the configuration and restart the server.To continue the installation with these changes and restart the server now, click OK .To abort the installation, click Cancel .	これは単なる情報メッセージです。	OK をクリックしてインストールを続行することを推奨します。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
This release of Cisco CallManager is not supported on this server model.The installation will now abort.	このサーバには、このバージョンの Cisco CallManager はインストールできません。	このバージョンの Cisco CallManager をインストールできるサーバの一覧については、『Cisco CallManager Compatibility Matrix』を参照してください。本書の最新版を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。
The installation program does not have enough disk space on the C drive to complete the installation.The installation program requires that you have 3.0 gigabytes of disk space available on your server.Make at least 3.0 gigabytes of disk space available and restart the installation.For information, refer to the Upgrading Cisco CallManager guide.	Cisco.com からの Web ファイルを使用してアップグレードしようとしたが、十分なディスクスペースがありません。	3.0 ギガバイトのディスクスペースを確保してから、インストールプログラムを再起動します。
The installation program does not have enough disk space on the C drive to complete the installation.The installation program requires that you have 2.0 gigabytes of disk space available on your server.Make at least 2.0 gigabytes of disk space available and restart the installation.For information, refer to the Upgrading Cisco CallManager guide.	CD ROM ディスクを使用してアップグレードしようとしたが、十分なディスクスペースがありません。	2.0 ギガバイトのディスクスペースを確保してから、インストールプログラムを再起動します。
This version of Cisco CallManager is currently installed.	このメッセージは、現在サーバにインストールされているものと同じバージョンの Cisco CallManager を再度インストールしようとした場合に表示されます。	ディスクをドライブから取り出します。
A newer version of this package has already been installed.	このメッセージは、インストールが成功した後で、そのバージョンよりも前のバージョンの Cisco CallManager をインストールしようとした場合に表示されます。	ディスクをドライブから取り出します。
Cisco CallManager install did not complete successfully.Review the log file for more information.	Cisco CallManager のインストールが失敗しました。	ログファイルを取得して調べます。
Unable to locate MSI package associated with this bootstrapper.	Cisco CallManager のインストールパッケージに含まれるすべてのファイルをサーバにコピーしませんでした。	インストールパッケージを完全にサーバにコピーしてから、Cisco CallManager のインストールを再開します。
Error opening MSI package	Cisco CallManager のセットアップ時に MSI パッケージを見つけることができませんでした。	このメッセージは、メディアに問題が発生した場合に表示されます。再度ディスクを挿入します。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
This package has already been installed.	このメッセージは、インストールが成功した後で、同じバージョンの Cisco CallManager を再度インストールしようとした場合に表示されます。	ディスクをドライブから取り出します。
An unexpected error occurred.	Cisco CallManager のセットアップ時にエラーが発生しました。	ログ ファイルを取得して調べます。
An unexpected error occurred while creating the log directory.	インストール時にログ ファイルのディレクトリを作成できませんでした。	サーバのセキュリティ ポリシーが制限されていないことを確認します。
An unexpected error occurred while constructing package name.	Cisco CallManager のセットアップ時にエラーが発生しました。	ログ ファイルを取得して調べます。
The local security policy “Restrict CD-ROM access to locally logged-on user only” is enabled.This setting interferes with the Cisco CallManager installation.Please disable this setting using the Local Security Policy utility, reboot, and rerun the Cisco CallManager installation.	ご使用のサーバで、「Restrict CD-ROM access to locally logged-on user only」というローカルセキュリティ ポリシーが有効になっています。	Local Security Policy ユーティリティを利用してこの設定を無効にし、リブートしてから、Cisco CallManager のインストールを再開します。 詳細については、P.5-15 の「名前解決に関する問題の解決」を参照してください。
Failure occurred trying to get DBNAME value from registry.Aborting Cisco CallManager installation.	インストール時に、ローカル マシンのレジストリから DBNAME 値を読み取れませんでした。	サーバをリブートしてから、Cisco CallManager のインストールを再開します。
Failure occurred trying to validate the format of DBNAME value.Aborting Cisco CallManager installation.	レジストリに含まれている DBNAME 値は無効な形式です。このエラーが発生するのは、この値を手動で変更した場合だけです。	DBNAME 値が CCM0xxx 形式 (x は任意の数字を表す)であることを確認します。
Current OS version does not meet minimum requirements.This version of CallManager requires the minimum OS version to be <MinOSVersion>.The minimum baseline OS image version is <MinOSBaseVersion>. For more information, refer to the “Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server and Upgrading Cisco CallManager” documents.The installation will now abort.”	Cisco CallManager Release 4.2(1) には、シスコが提供するオペレーティングシステムバージョン 2000.4.2sr2 (またはそれ以降) が必要です。	インストール可能なバージョンを確認するには、『Cisco Compatibility Matrix』を参照してください。本書を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm にアクセスしてください。
Installing Cisco CallManager using Terminal Services is not allowed.Install will now abort.	Cisco CallManager のインストール、アップグレード、および設定タスクでは、Terminal Services はサポートされません。 Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、リモート管理タスクやトラブルシューティング タスクに Terminal Services を使用します。	Virtual Network Computing (VNC) を使用する場合は、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/iptel_os/index.htm にアクセスして最新版のマニュアルを入手してください。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Failed to launch <name of executable>, aborting install	インストール時に実行ファイルを起動しようとしたが、起動に失敗しました。	ログ ファイルを取得して調べます。メディアに問題が発生している可能性もあります。
Failure occurred during the Cisco Directory installation.Refer to the log file C:\Program Files\Common Files\Cisco\Directory\IntegratedSetup.trc for details.Aborting Cisco CallManager install.	DC Directory のインストールが失敗しました。	ログ ファイルを取得して調べます。
The Cisco CallManager installation detected an error while copying files.Stop all platform agents and Cisco-verified applications, and restart the installation. For more information, refer to the Upgrading Cisco CallManager document.	Cisco CallManager のインストールで、サーバへのファイルのコピーに失敗しました。	すべてのプラットフォーム エージェントおよびシスコで検証済みのアプリケーションを停止し、インストールを再開する必要があります。
Failure occurred during the Cisco CallManager installation.Please look at the Cisco CallManager installation log file for details.Aborting Cisco CallManager installation.	The Cisco CallManager installation detected an error while copying files. すべてのプラットフォーム エージェントおよびシスコで検証済みのアプリケーションを停止し、インストールを再開する必要があります。詳細については、『Cisco CallManager アップグレード手順』を参照してください。	ログ ファイルを取得して調べます。
The password of [X] does not match the password on the publisher [Y].For details, review the log file [Z].	Cisco CallManager をサブスクリバサーバにインストールしているユーザのユーザ名またはパスワード、あるいはその両方がパブリッシャ データベース サーバ上のユーザ名およびパスワードと一致していません。	正しいパブリッシャ サーバ名を入力したこと、およびユーザ名とパスワードがパブリッシャ サーバとサブスクリバサーバとで一致していることを確認します。
Because no network connectivity exists or you entered the incorrect publisher server name, the installation could not verify the password of [X] against the publisher [Y].For details, review the log file [Z].	このエラーが発生するのは、サブスクリバサーバのインストール中に、サブスクリバ データベースサーバとパブリッシャ データベースサーバとの間にネットワーク接続が存在しない場合、あるいは入力したパブリッシャ データベースサーバ名が正しくなかった場合です。	パブリッシャ データベース サーバとサブスクリバ サーバ間の接続を確認し、パブリッシャ データベース サーバの正しい名前を入力したことを確認します。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Either the password of [X] does not match the password on the publisher [Y], or a network connectivity error occurred. For details, review the log file [Z].	<p>次のいずれかの問題が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> パブリッシャ データベース サーバとサブスクリバ サーバとの間にネットワーク接続が確立されていない。 Cisco CallManager をサブスクリバ サーバにインストールしているユーザのユーザ名またはパスワード、あるいはその両方がパブリッシャ データベース サーバ上のユーザ名およびパスワードと一致しない。 入力したパブリッシャ データベース サーバの名前が正しくない。 	<p>次のそれぞれの作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> パブリッシャ データベース サーバとサブスクリバ サーバとの間の接続を確認する。 Administrator のユーザ名とパスワードを使用してパブリッシャ データベース サーバおよびサブスクリバ サーバに Cisco CallManager をインストールしたことを確認する。 正しいパブリッシャ データベース サーバ名を入力したことを確認する。
The private password phrase does not match the private password phrase on the publisher [X]. For details, review the log file [Y].	<p>サブスクリバ サーバのインストール時に、次のいずれかの問題が発生しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> NT サービス アカウントのパスワードが一致しない。 入力したパブリッシャ データベース サーバの名前が正しくない。 パブリッシュ データベース サーバとサブスクリバ サーバとで、異なるプライベートパスワードフレーズを入力した。 	<p>次のそれぞれの作業を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> サブスクリバ サーバとパブリッシャ データベース サーバとの間に信頼できる接続が確立されていることを確認する。 パブリッシャ データベース サーバの正しい名前を入力したことを確認する。 パブリッシャ データベース サーバと同じプライベートパスワードフレーズを入力したことを確認する。
The installation could not verify the private password phrase on the publisher <server name>, because the user does not have permission to access the publisher server over the network. For details, review the log file <log file name>.	<p>ネットワーク上でパブリッシャ サーバにアクセスする権限をユーザが持っていないため、インストール時にパブリッシャ <server name> のプライベートパスワードフレーズを確認できませんでした。詳細については、ログ ファイル <log file name> を確認してください。</p>	<p>パブリッシャ サーバまたはサブスクリバ サーバのいずれかのセキュリティ設定により、サブスクリバ サーバのインストール時に、インストール プログラムがパブリッシャ サーバのプライベートパスワードフレーズを確認できませんでした。</p> <p>考えられる原因は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> パブリッシャ サーバまたはサブスクリバ サーバが、インストール時にドメイン内にあった。 マシン上のローカル セキュリティポリシー設定の中に、インストール プログラムによるこの操作の実行を妨害するものがあつた。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Either the passwords do not match on the publisher [servername], or a network connectivity error occurred.	サブスクリイバ サーバのインストール中に、次のいずれかのエラーが発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク接続が失敗した。 パブリッシャ データベース サーバのパスワードと一致しない NT サービス アカウント パスワードを入力した。 誤ったパブリッシャ データベース サーバ名を入力した。 	次の作業をすべて実行します。 <ul style="list-style-type: none"> サブスクリイバ データベース サーバとパブリッシャ データベース サーバとの間の接続を確認する。 パブリッシャ データベース サーバのパスワードと同じ NT サービス アカウント パスワードを入力する。 正しいパブリッシャ データベース サーバ名を入力する。
The installation failed to verify the Cisco CallManager version that runs on the publisher database server.Cancel the installation, and review the log file at C:\Program Files\ Common Files\Cisco\Logs\ CCMUIInst.log.	このエラーが発生するのは、サブスクリイバのインストール中に、サブスクリイバ データベース サーバとパブリッシャ データベース サーバとの間にネットワーク接続が存在しない場合、あるいは入力したパブリッシャ データベース サーバ名が正しくなかった場合です。	パブリッシャ データベース サーバとサブスクリイバ データベース サーバとの間の接続を確認し、また、正しいパブリッシャ データベース サーバ名を入力したことを確認します。
The Cisco CallManager version you are installing on this subscriber does not match the version running on the publisher database server.Cancel the installation and ensure the publisher is upgraded to this Cisco CallManager version before you continue.	パブリッシャ データベース サーバにインストールしたものと異なるバージョンの Cisco CallManager をサブスクリイバ データベース サーバにインストールしようとしてしました。	パブリッシャ データベース サーバと同じバージョンの Cisco CallManager をサブスクリイバ データベース サーバにインストールします。
UMX.dll failed to register.After you complete the installation, review the log file.	システムで regsvr32 が実行された際、プロセス作成の失敗、プロセスの異常終了、またはエラーの発生が起こったため、UMX.dll が登録に失敗しました。	インストール後にサーバをリブートしたことを確認します。コマンド プロンプトを実行し、regsvr32 C:\dcsvr\lib\UMX.dll と入力してから、Enter キーを押します。 問題が解決したことを確認するには、当該サーバで Cisco CallManager Administration への新しいユーザの追加を試行してください。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Indexing directory data did not finish.After you complete the installation, review the log file.The log file C:\dcdsrvr\log\DirInstallValidation.log.	インストール時に、DC Directory によるデータのインデックス化が完了したかどうか判断できませんでした。	インストールを続行します。インストールの終了時に、プロンプトに従ってサーバをリブートします。サーバをリブートした後、サービス コントロールを起動して、DC Directory Server が「開始」状態になるのを待ちます。 サーバがパブリッシャ データベースサーバである場合は、サブスクリバ データベースサーバに Cisco CallManager をインストールすることができます。 サーバがサブスクリバ データベースサーバである場合は、コマンド ウィンドウを表示して、 <code>dcdrepl trigger all</code> と入力します。システムに設定されているユーザ数によっては、サービスが開始状態になるまでに開始中の状態が長時間続くことがあります。
The Cisco CallManager installation failed to stop <list of services> service(s).Please reboot the server, manually stop the service(s), and rerun the Cisco CallManager installation program.	インストール中にインストール プログラムがサービスを停止できませんでした。	サーバをリブートし、サービスを手動で停止してから、Cisco CallManager インストール プログラムを再開します。
The installation encountered an unknown error while trying to resolve the Publisher server name [X].For more information, review the log file CCMInstUI.log.	パブリッシャ サーバの名前解決に失敗しました。	正しいパブリッシャ サーバ名を入力したことを確認します。hosts ファイルを確認するには、P.5-15 の「名前解決に関する問題の解決」を参照してください。
The installation could not resolve the Publisher server name [X] to a valid IP address.Verify that you entered the correct publisher server name, and review the log file CCMInstUI.log for more information.	入力したパブリッシャ サーバ名が正しくない、または hosts ファイルに誤った情報が含まれています。	正しいパブリッシャ サーバ名を入力したことを確認します。hosts ファイルを確認するには、P.5-15 の「名前解決に関する問題の解決」を参照してください。
The installation successfully resolved the Publisher server name [X] to IP address [Y] but could not resolve the IP address back to a host name.	Cisco CallManager パブリッシャ サーバの逆引き名前解決に失敗しました。	正しいパブリッシャ サーバ名を入力したことを確認します。hosts ファイルを確認するには、P.5-15 の「名前解決に関する問題の解決」を参照してください。
The installation successfully resolved the Publisher server name [X] to IP address [Y] and resolved the IP address back to the host name [Z].The resolved host name does not match the server name that you entered.	入力したパブリッシャ サーバ名が、正引き名前解決および逆引き名前解決の実行後にインストール プログラムが取得したサーバ名と一致していません。	正しいパブリッシャ サーバ名を入力したことを確認します。hosts ファイルを確認するには、P.5-15 の「名前解決に関する問題の解決」を参照してください。
The installation encountered an unknown error while trying to determine the server type during the upgrade.For more information, review the log file [x].	レジストリに無効なサーバ情報が含まれています。	ログ ファイルを取得して調べます。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Because mapped network drives exist on the server, the installation could not verify the password of [x] against the publisher [y]. Disconnect all the mapped drives, reboot the system, and rerun the installation. For details, review the log file [z].	インストール時に、サブスクリバサーバとパブリッシャ データベースサーバとでパスワードが一致していることを確認できませんでした。	マッピングされているすべてのドライブを接続解除し、システムをリブートしてから、インストールを再開します。
Because mapped network drives exist on the server, the installation could not verify the private password phrase against the publisher [y]. Disconnect all the mapped drives, reboot the system, and rerun the installation. For details, review the log file [z].	インストール時に、サブスクリバサーバとパブリッシャ データベースサーバとでプライベートパスワードフレーズが一致していることを確認できませんでした。	マッピングされているすべてのドライブを接続解除し、システムをリブートしてから、インストールを再開します。
The Cisco CallManager installation detected an unrecoverable error during database migration.You must revert to the original version of Cisco CallManager.For more information, refer to the <i>Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server and Upgrading Cisco CallManager</i> documents.	インストール プログラムは Cisco CallManager データを移行できませんでした。	次の手順に従って、元のバージョンの Cisco CallManager に復元します。 <ul style="list-style-type: none"> • Same Server Recovery を利用してオペレーティングシステムをインストールする。 • アップグレードの試行前にサーバで実行されていたバージョンの Cisco CallManager をインストールする。 • バックアップファイルから Cisco CallManager のデータを復元する。 <p>詳細については、P.4-1 の「アップグレード試行後における前の設定の復元」を参照してください。</p>
You are upgrading Cisco CallManager <InstalledBUILDVERSION> to version <UpgradeBUILDVERSION> which does NOT support the following features: <ul style="list-style-type: none"> • Force Authorization Code and Client Matter Codes • Call Block for Extension to Extension Transfer <p>If you continue to upgrade, these features will no longer be available, and any associated data will be lost.Do you want to continue the upgrade process?</p>	3.3(4) およびそれ以降を 4.0(2) にアップグレードする場合、メッセージに示されている機能を使用できなくなります。	なし。これは情報メッセージです。
The upgrade that you are attempting is not supported.To verify which versions of Cisco CallManager are compatible for upgrade, please refer to the Cisco CallManager Compatibility Matrix on CCO.The installation will now abort.	選択したバージョンの Cisco CallManager からのアップグレードはサポートされていません。	インストール可能なバージョンを確認するには、『 <i>Cisco Compatibility Matrix</i> 』を参照してください。本書を入手するには、 http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/ccmcomp.htm にアクセスしてください。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
Cisco CallManager installation failed while installing Microsoft SQL 2000. Review the Cisco CallManager installation logs to determine the cause of failure. Take appropriate action and reinstall both the Cisco IP Telephony Operating System and Cisco CallManager program. For more information refer to the Cisco CallManager installation documents.	考えられる原因は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ターゲット マシンがウイルスに感染している。 Cisco Security Agent、アンチウイルス ソフトウェア、またはその他のサードパーティ製アプリケーションがインストールされ、実行されていた。 	Cisco CallManager のインストールを再確認して、問題の原因を特定します。ウイルスを除去するか、または問題のソフトウェアを無効化するための適切な処置を行ってから、Cisco IP Telephony Operating System および Cisco CallManager プログラムの両方を再インストールします。
Cisco CallManager successfully installed Microsoft SQL 2000 and requires the server to be rebooted. To continue the installation, you must disable or stop any antivirus protection, intrusion detection software, and other third-party software, and then rerun the installation program. When the server reboots, you must rerun the installation program to continue your installation.	アンチウイルス ソフトウェア、侵入検知ソフトウェア、またはその他のサードパーティ製アプリケーションがインストールされ、実行されていました。	インストールを続行するには、次の作業を行う必要があります。 <ol style="list-style-type: none"> すべてのアンチウイルス ソフトウェア、侵入検知ソフトウェア、その他のサードパーティ製アプリケーションを無効化または停止する。 インストール プログラムを再開する。 サーバのリブート後、インストール プログラムが自動的に続行されない場合は、手動で再開する。
Cisco CallManager installation failed while installing Microsoft SQL 2000 SP4. Review the Cisco CallManager installation logs to determine cause of failure, take appropriate action. Download Microsoft SQL 2000 service pack 4 (or later) from Cisco.com, install it on the server, and rerun the Cisco CallManager installation program. For more information refer to the Cisco CallManager installation documents.	考えられる原因は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ターゲット マシンがウイルスに感染している。 Cisco Security Agent、アンチウイルス ソフトウェア、またはその他のサードパーティ製アプリケーションがインストールされ、実行されていた。 	Microsoft SQL 2000 Service Pack 4 (またはそれ以降) を Cisco.com からダウンロードして、サーバにインストールし、次に Cisco CallManager インストール プログラムを再開します。
Cisco CallManager successfully installed Microsoft SQL 2000 SP4 and requires the server to be rebooted. To continue the installation, you must disable or stop any antivirus protection, intrusion detection software, and other third-party applications, and then rerun the installation program. When the server reboots, you must rerun the installation program to continue your installation. The installation program automatically reboots the server and the installation will continue.	アンチウイルス ソフトウェア、侵入検知ソフトウェア、またはその他のサードパーティ製アプリケーションがインストールされ、実行されていました。	インストールを続行するには、次の作業を行う必要があります。 <ol style="list-style-type: none"> すべてのアンチウイルス ソフトウェア、侵入検知ソフトウェア、その他のサードパーティ製アプリケーションを無効化または停止する。 インストール プログラムを再開する。 サーバのリブート後、インストール プログラムが自動的に続行されない場合は、手動で再開する。

表 5-1 インストール時のメッセージ (続き)

メッセージ	原因	対応策
<p>Cisco CallManager could not install the Microsoft MDAC Hotfix MS04-003 at this time.</p> <p>When the installation has finished, please reapply the latest Cisco OS Upgrade Service Release.</p> <p>For more information refer to the Cisco CallManager installation documents.</p>	<p>ホットフィックスのタイムアウトである 1800 秒が経過したか、Microsoft SQL Server 2000 Service Pack 4 がすでにシステムにインストールされています。</p>	<p>Cisco CallManager のインストールに影響はありませんが、インストールの終了後に、最新の Cisco OS Upgrade Service Release を再度適用してください。</p> <p>Microsoft SQL Server 2000 SP 4 がすでにインストールされている場合、このメッセージは無視してもかまいません。</p>
<p>Cisco CallManager could not install the Microsoft SQL 2000 Hotfix MS03-031.</p> <p>When the installation has finished, download the SQL 2000 Hotfix MS03-031 from cisco.com, and manually install it.</p> <p>For more information refer to the Cisco CallManager installation documents.</p>	<p>Microsoft SQL Hotfix MS03-031 のインストールに失敗しました。Cisco CSA またはアンチウイルス ソフトウェアがインストールされて動作しているか、または Microsoft SQL Server 2000 Service Pack 4 がすでにシステムにインストールされている可能性があります。</p>	<p>Cisco CallManager のインストールに影響はありません。インストールの終了後、Cisco CSA またはアンチウイルス ソフトウェアを無効にし、cisco.com から SQL 2000 Hotfix MS03-031 をダウンロードし、手動でインストールします。ホットフィックスのインストール後、Cisco CSA およびアンチウイルス ソフトウェアを再度有効にできます。</p> <p>Microsoft SQL Server 2000 SP 4 がすでにインストールされている場合、このメッセージは無視してかまいません。</p> <p>SQL2K-MS03-031.exe は、http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/cmva-3des からダウンロードできます。</p>
<p>The installation program detected an insufficient amount of memory for this version of Cisco CallManager to function properly on this server. You may continue installing this version on a subscriber server, but you must increase the amount of memory on this server to a minimum of 1 GB after the installation to avoid any system problems.</p>	<p>サーバが最小メモリ要件を満たしていません。</p>	<p>インストールは続行できますが、システムの問題を避けるために、インストール後にこのサーバのメモリを 1 GB 以上に増やすことを推奨します。</p>
<p>The installation program detected an insufficient amount of memory for this version of Cisco CallManager to function properly on this server. Please increase the amount of memory you have on this server to a minimum of 1 GB before you install this version of the program.</p>	<p>サーバが最小メモリ要件を満たしていません。</p>	<p>Cisco CallManager をインストールする前に、このサーバのメモリを 1 GB 以上に増やしてください。</p>

名前解決に関する問題の解決

Cisco CallManager では、NetBIOS および IP の名前解決が必要です。WINS (NetBIOS) または DNS (IP) の設定を誤ると、サービス停止につながる可能性があります。

名前解決の問題を解決するには、ネットワーク管理者に問い合わせ、ネットワーク全体における NetBIOS および IP の名前解決を確認します。確認する内容は、ローカル デバイスの IP 設定、ローカル デバイスの名前解決 (LMHOSTS および HOSTS)、ネットワーク ベースの名前解決システム (WINS および DNS)、および DHCP システムです。



(注) ローカル ベースまたはネットワーク ベースのいずれか一方の名前解決を使用することを推奨します。両方を同時に使用しないでください。



(注) ローカル の名前解決を使用し、いずれかのサーバの IP アドレスを変更する場合、ネットワーク内で影響を受けるすべてのサーバの LMHOSTS ファイルおよび HOSTS ファイルを適宜更新する必要があります。変更内容を有効にするには、影響を受けるサーバをすべてリブートするか、[ステップ 4](#) の作業を実行します。



(注) ネットワーク ベースの名前解決を使用し、いずれかのサーバの IP アドレスを変更する場合は、WINS および DNS (RARP を含む) システムを更新する必要があります。変更内容を有効にするには、影響を受けるサーバをすべてリブートするか、[ステップ 4](#) の作業を実行します。

手順

ステップ 1 `ipconfig /all` コマンドおよび `hostname` コマンドをクラスタ内の各サーバで実行して、各サーバの IP アドレス、ホスト名、および DNS サフィックスを取得します。

ステップ 2 クラスタ内のすべてのサーバの名前と IP アドレスを、各サーバの `hosts` ファイルに入力します。`hosts` ファイルは、`c:\winnt\system32\drivers\etc` にあります。

次の例は、`hosts` ファイルを示しています。cm1 はホスト名を表し、`mydomain.com` はデフォルトの DNS サフィックスまたは接続固有の DNS サフィックスを表します。これらは、`ipconfig /all` コマンド出力から取得されます。

```
127.0.0.1 localhost
1.3.5.9 cm1 cm1.mydomain.com
1.2.4.8 cm2 cm2.mydomain.com
```

ステップ 3 クラスタ内のすべてのサーバの名前と IP アドレスを、各サーバの `lmhosts` ファイルに入力します。`lmhosts` ファイルは、`c:\winnt\system32\drivers\etc` にあります。

次の例は、`lmhosts` ファイルを示しています。cm1 はホスト名を表します。

```
1.3.5.9 cm1 #PRE
1.2.4.8 cm2 #PRE
```

ステップ4 変更内容を有効にするには、次のコマンドを各サーバで実行します。

```
ipconfig /flushdns
nbtstat -R
```



(注) このコマンドで、「R」は大文字と小文字が区別されるので注意してください。

ステップ5 次の手順に従って、変更内容が正常にロードされたことを確認します。

a. *nbtstat -c* の出力を確認します。

クラスタにある他のすべてのサーバ名が、life (キャッシュの寿命) -1 と共に表示されています。これらの名前は複数回表示されます。

次の例は、*nbtstat -c* コマンドの出力を示しています。

例 5-1 NetBIOS Remote Cache Name Table

Name		Type	Host Address	Life [sec]
CM2	<03>	UNIQUE	1.3.5.9	-1
CM2	<00>	UNIQUE	1.3.5.9	-1
CM2	<20>	UNIQUE	1.3.5.9	-1
CM1	<03>	UNIQUE	1.2.4.8	-1
CM1	<00>	UNIQUE	1.2.4.8	-1
CM1	<20>	UNIQUE	1.2.4.8	-1

b. *ipconfig /displaydns* の出力を確認します。クラスタ内のすべてのサーバで、正引きエントリおよび逆引きエントリが少なくとも1つずつ必要です。次の例では、サーバごとに正引きエントリと逆引きエントリが2つずつあります。

正引きエントリ

```
cm1.mydomain.com.
```

```
-----
Record Name . . . . . : cm1.mydomain.com
Record Type . . . . . : 1
Time To Live . . . . . : 30682708
Data Length . . . . . : 4
Section . . . . . : Answer
A (Host) Record . . . . :
> . . . . . : 1.2.4.8
cm1.
```

```
-----
Record Name . . . . . : cm1
Record Type . . . . . : 1
Time To Live . . . . . : 30682708
Data Length . . . . . : 4
Section . . . . . : Answer
A (Host) Record . . . . :
> . . . . . : 1.2.4.8
```

逆引きエントリ

```
8.4.2.1.in-addr.arpa.
-----
Record Name . . . . . : 8.4.2.1.in-addr.arpa
Record Type . . . . . : 12
Time To Live . . . . . : 30682708
Data Length . . . . . : 4
Section . . . . . : Answer
PTR Record . . . . . :
>                               cm1

Record Name . . . . . : 8.4.2.1.in-addr.arpa
Record Type . . . . . : 12
Time To Live . . . . . : 30682708
Data Length . . . . . : 4
Section . . . . . : Answer
PTR Record . . . . . :

cm1.mydomain.com
```

Restrict CD-ROM Access to Locally Logged-On User Only セキュリティ ポリシーの無効化

ローカル セキュリティ ポリシー「Restrict CD-ROM access to locally logged-on user only」が有効になっているというエラー メッセージが表示されたら、この設定を無効にし、サーバをリブートしてから、Cisco CallManager のインストールを再び実行する必要があります。このセキュリティ ポリシーを無効にするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Start > Programs > Administrative Tools > Local Security Policy を順に選択して、Local Security Policy ユーティリティを起動します。
 - ステップ 2** 左側のペインで Local Policies フォルダを開き、Security Options フォルダを選択します。
 - ステップ 3** 右側のペインで Restrict CD-ROM access to locally logged-on user only ポリシーを選択し、Enter キーを押します。

Local Security Policy ダイアログボックスが表示されます。
 - ステップ 4** Disabled オプション ボタンを選択し、OK をクリックします。
 - ステップ 5** Local Security Policy ユーティリティを終了します。
 - ステップ 6** サーバをリブートします。
 - ステップ 7** Cisco CallManager のインストールを再開します。
-



アップグレード中のサーバ交換

本書では、サーバで実行するアプリケーションは Cisco CallManager だけであることを想定しています。また、Cisco CallManager、Cisco Customer Response Solutions (CRS)、およびサードパーティ製のシスコ認定のアプリケーションが同じサーバにインストールされている共存サーバの交換に関する手順については説明していません。

これから説明する手順を使用して、パブリッシャ データベース サーバだけ、サブスクリバ サーバだけ、複数のサブスクリバ サーバ、またはパブリッシャ データベース サーバとサブスクリバ サーバの両方を、アップグレード中に交換することができます。マニュアルで特に指示のない限り、すべての手順は順次、つまり一度に 1 台のサーバに対して行ってください。



注意

これらの手順により、コール処理が中断されます。同じメンテナンス ウィンドウ内でこの手順を実行することを強く推奨します。バックアップの実行後は、既存のパブリッシャ データベース サーバを変更しないでください。バックアップ後に行った変更内容は、新しいデータベース内には存在しません。

Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード中の Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバの交換

次の手順を実行してください。

手順

- ステップ 1** 既存の Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバに関して、**ステップ 2 ~ ステップ 6** を実行します。

既存の Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバで作業を実行 (必須)

- ステップ 2** 現行システムのコンピュータ名、ネットワーク カードの Speed 設定および Duplex 設定、IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、および WINS などの、すべてのネットワーク設定を記録します。既存のクラスタ内のサーバの設定を記録します。つまり、すべてのソフトウェア パージョン、Cisco CallManager サービス、共存アプリケーション、およびプラグインを記録して、アップグレード後に、これらを再インストールできるようにします。表 6-1 にこれらの情報を記録します。

表 6-1 サーバ設定

サーバ設定	ユーザ使用欄
コンピュータ名	
NIC Speed/Duplex 設定	
IP アドレス	
サブネット マスク	
デフォルト ゲートウェイ	
DNS 設定	
WINS 設定	
Cisco CallManager サービス (Cisco CallManager Serviceability を参照)	
共存アプリケーション (アプリケーション タイプとバージョンを記録)	
サードパーティ製のシスコ認定のアプリケーション (アプリケーション タイプとバージョンを記録)	
Cisco CallManager Administration のプラグイン	
その他の関連情報	

- ステップ 3** 4 つのドライブを持つサーバを交換している場合は、サーバのトレース ディレクトリ パスをデフォルトの C: ドライブに設定することを推奨します。『Cisco CallManager Serviceability アドミニストレーション ガイド』を参照してください。

- ステップ 4** 『Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide』を参照して、次の作業を実行します。本書の最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

- a. パブリッシャ データベース サーバで Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Version 4.0(7) (またはそれ以降) をインストールして設定し、サーバをリブートします。

- b. 既存の Cisco CallManager データをバックアップします。

**注意**

ネットワーク ディレクトリまたはローカル テープ デバイスにデータを確実にバックアップしてください。

バックアップの実行後は、既存のパブリッシャ データベース サーバを変更しないでください。バックアップ後に行った変更内容は、新しいデータベース内には存在しません。

- ステップ 5** HOST ファイルおよび LMHOST ファイルを、C:\WINNT\SYSTEM32\DRIVERS\ETC からバックアップ データが保存されているネットワーク ディレクトリにコピーします。この作業は、フロッピー ディスクで実行できます。
- ステップ 6** Cisco CallManager パブリッシャ データベース サーバの電源をオフにして、ネットワークから切断します。

新規のパブリッシャ データベース サーバを準備

- ステップ 7** 新規のサーバをネットワークに接続して、サーバの電源をオンにします。シスコが提供するオペレーティング システム ディスクを使用して、まだデータのない新規のパブリッシュ データベース サーバにオペレーティング システム バージョン 2000.4.2sr2 をインストールします。オペレーティング システムのマニュアルを入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/iptel_os/index.htm にアクセスしてください。

**注意**

オペレーティング システムのインストールでは、New Installation and Server Replacement オプションを必ず選択してください。正確なコンピュータ名と、Cisco CallManager を実行するパブリッシャ データベース サーバのネットワーク設定情報を入力する必要があります。I am recovering a system from backup チェックボックスはオフにしてください。新規のパブリッシャ データベース サーバを Windows のドメインに参加させないでください。ドメインに参加させると、Cisco CallManager のインストールが失敗します。

- ステップ 8** Cisco CallManager に付属する Cisco IP Telephony Server Operating System OS Upgrade Disk を使用して、シスコが提供するオペレーティング システムをバージョン 2000.4.2sr2 にアップグレードします。アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。
- ステップ 9** 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース (2000.4.2sr2 またはそれ以降) をダウンロードして、インストールします。オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ステップ 10 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。

オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates』、および『Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

ステップ 11 Host ファイルおよび LMHOST ファイルを新規のパブリッシャ データベース サーバの C:\WINNT\SYSTEM32\DRIVERS\ETC にコピーして、サーバをリブートします。

ステップ 12 『Cisco CallManager Release 4.2(1) インストレーション ガイド』を入手します。最新版を入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。

ステップ 13 『Cisco CallManager Release 4.2(1) インストレーション ガイド』を参照して、Cisco CallManager のインストールを実行します。

**注意**

サーバを交換する場合は、現在のバージョンの Cisco CallManager で新規サーバを作成します。新規サーバにデータベースを復元して、リリース 4.2 (1) へのアップグレードを実行します。

ステップ 14 バックアップ データを新規のパブリッシャ データベース サーバに復元します。バックアップと復元のユーティリティのマニュアルを入手するには、<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm> にアクセスしてください。

**ヒント**

新規のサーバが予期したとおりに動作することを確認します。インストール後およびアップグレード後の作業を検討し、必要な作業を確認して実行してください。インストール後の作業に関して Cisco CallManager のインストール マニュアルを入手するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。アップグレード後の作業を検討するには、P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。

Cisco CallManager 4.2(1) アップグレード中の Cisco CallManager サブスクライバ サーバの交換

サブスクライバ サーバでの Cisco CallManager のインストールは順次、つまり一度に 1 台のサーバで実行する必要があります。



注意

パブリッシャ データベース サーバおよびサブスクライバ サーバを交換する場合は、最初にパブリッシャ データベース サーバを交換し、データを移行してサービスが予期したとおりに開始したことを確認します。

これらの手順は、パブリッシャ データベース サーバが活動している活動中のネットワーク上で実行します。



ワンポイント・アドバイス

新規のハードウェアが現在のシステムと同じネットワークに接続されていない場合、必要に応じて、オペレーティング システムのインストールをすべての新規サーバで同時に実行できます。本書の手順に従って、物理的に分離されたネットワークでオペレーティング システムを確実にインストールします。この方法でオペレーティング システムをインストールすると、実稼働ネットワークに実際のハードウェアを移行するときに、サーバ当たり約 1 時間プロセスを短縮できます。



ヒント

1 番目のサブスクライバ サーバをインストール後、そのサーバとアプリケーションが予期したとおりに動作することを確認します。サーバが予期したとおりに動作しない場合は、活動中の（新規の）パブリッシャ データベース サーバとサブスクライバ サーバの電源をオフにし、パブリッシャ データベース サーバの電源をオンにして、サブスクライバ サーバを元の状態に再構成します。サブスクライバ サーバのハードウェアを交換した場合は、旧サブスクライバ サーバの電源を復旧します。

2 番目のサブスクライバ サーバをインストールして予期したとおりに動作することを確認した後で、クラスタを元の状態に復元することを選択した場合、コール処理の中断が発生することがあります。

手順

- ステップ 1** 現行システムのコンピュータ名、ネットワーク カードの Speed 設定および Duplex 設定、IP アドレス、サブネット マスク、ゲートウェイ、DNS、および WINS などの、すべてのネットワーク設定を記録します。既存のクラスタ内のサーバの設定を記録します。つまり、すべてのソフトウェア パッケージ、Cisco CallManager サービス、共存アプリケーション、およびプラグインを記録して、アップグレード後に、これらを再インストールできるようにします。これらの情報を記録するには、[表 6-1](#) を使用します。
- ステップ 2** Cisco CallManager サブスクライバ サーバの電源をオフにして、ネットワークから切断します。
- ステップ 3** 新規のサーバをネットワークに接続して、サーバの電源をオンにします。

- ステップ 4** シスコが提供するオペレーティング システム ディスクを使用して、まだデータのない新規のサーバにオペレーティング システム 2000.4.2sr2（またはそれ以降）をインストールします。



注意 オペレーティング システムのインストールでは、**New Installation or Server Replacement** オプションを必ず選択してください。

I am recovering a system from backup チェックボックスはオフにしてください。

オペレーティング システムのインストール中は、サーバを Windows のドメインに参加させないでください。ドメインに参加させると、Cisco CallManager のインストールが失敗します。

- ステップ 5** Cisco CallManager に付属する Cisco IP Telephony Server Operating System OS Upgrade Disk を使用して、シスコ提供のオペレーティング システムをバージョン 2000.4.2sr2 にアップグレードします。アップグレードを実行する前に、オペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに記載されているオペレーティング システムの readme 情報を必ず読んでください。このサイトには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> の Cisco CallManager ソフトウェア ページからアクセスできます。

- ステップ 6** 最新の Cisco IP Telephony Server Operating System サービス リリース（2000.4.2sr2 またはそれ以降）をダウンロードして、インストールします。オペレーティング システム サービス リリースは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

- ステップ 7** 最新の OS 関連のセキュリティ ホットフィックスがある場合は、ダウンロードしてインストールする。

オペレーティング システムに関連するセキュリティ ホットフィックスは、音声製品のオペレーティング システム暗号化ソフトウェアのページに配置されています。Cisco CallManager ソフトウェア ページからこのサイトに移動できます。

インストールの説明については、ファイル別の readme 資料、『*Cisco IP Telephony Operating System, SQL Server, Security Updates*』、および『*Installing the Operating System on the Cisco IP Telephony Applications Server*』を参照してください。これらのマニュアルの最新版を入手するには、<http://www.cisco.com/kobayashi/sw-center/sw-voice.shtml> にアクセスしてください。

- ステップ 8** Cisco CallManager Installation ディスクを使用して、オペレーティング システムをインストールした新規サーバで完全なサブスクリバインストールを実行します。詳細については、Cisco CallManager のインストール マニュアルを参照してください。
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。

**ヒント**

サーバに Cisco CallManager をインストール後、新規のサーバが予期したとおりに動作することを確認してください。インストール後およびアップグレード後の作業を検討し、必要な作業を確認して実行してください。インストール後の作業に関して Cisco CallManager 4.2(1) のインストール マニュアルを参照するには、http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm にアクセスしてください。アップグレード後の作業を検討するには、P.3-1 の「アップグレード後の作業の実行」を参照してください。

アップグレード中のハードウェア交換のトラブルシューティング

サーバが予期したとおりに動作しない場合は、必要に応じて、活動中の（新規の）パブリッシャ データベース サーバとサブスクリバ サーバの電源をオフにし、パブリッシャ データベース サーバの電源をオンにして、サブスクリバ サーバを元の状態に再構成します。サブスクリバ サーバを交換した場合は、サブスクリバ サーバの電源を復旧します。

■ アップグレード中のハードウェア交換のトラブルシューティング



ま

マニュアル
表記法 viii